

2022

事業報告書

社会福祉法人日向更生センター
宮崎市養護老人ホーム 清流園

宮崎市養護老人ホーム
外部サービス利用型特定施設入居者生活介護
清流園
2022 事業報告書 目次

サービス別 事業報告

1	サービス提供支援体制報告	1～16
	1) 生活相談員	
	2) 介護士	
	3) アンケート調査結果	
	4) 各グループにおける報告	
2	健康・保健衛生事業報告	17
3	食事サービス事業報告	18～19
4	職員研修	20
5	地域交流	20
6	実習及び研修	21
7	防災・防犯	21
8	地域貢献	22

事業報告資料

1	職員の状況	23～27
	1) 職員数	
	2) 嘱託医の状況	
	3) 研修の状況	
	①施設外研修	
	②その他の研修及び会議	
	③施設内研修	
	4) 施設内会議	
2	利用者の状況	28～33
	1) 月別入退園状況	
	2) 入退園者内訳	
	3) 年齢構成	
	4) 在園期間	
	5) 月別外泊者状況	
	6) 月別外出者状況	
	7) 面会状況	
	8) 身元引受人別	
	9) 年金の受給別	

- 10) 医療保険別
- 11) ADL（日常生活動作）状況
- 12) 入浴状況
- 13) 介護保険利用実績
- 14) 年齢構成等・ADL自立の推移

3 保健衛生の状況 34～38

- 1) 園内状況
- 2) 定期検診等の実施状況
- 3) 通院治療状況
- 4) 月別入院状況
- 5) 年間の疾患別入院状況
- 6) 職員の健康診断等の実施状況

4 食事の状況 39～42

- 1) 栄養給与状況及び給食費
- 2) 給食対象者数
- 3) 食事形態
- 4) 行事食実施状況
- 5) 嗜好及びニーズ調査結果

5 その他の状況 43～51

- 1) 全体行事及びその他の実施状況
- 2) 生活援助活動
- 3) 主なクラブ活動
- 4) 生きがい活動における参加状況
- 5) 防災・防犯訓練実施状況
- 6) ボランティア及びその他の状況
- 7) 視察、研修及び実習の状況
 - ①視察、他
 - ②研修及び実習

6 各種委員会の状況 52～59

- 1) 事故虐待防止・身体拘束廃止委員会
 - ①ヒヤリハット報告状況
 - ②事故報告状況
- 2) 感染症予防・まん延防止委員会
- 3) 食事サービス委員会
- 4) 苦情処理状況

7 財務諸表・他 60～63

- 1) 資金収支計算書
- 2) 事業活動計算書
- 3) 貸借対照表
- 4) 水道光熱費の推移

1 サービス提供支援体制報告

1) 生活相談員

① 自立支援・個別処遇に向けての充実

自立支援については、利用者の高齢化や心身機能低下の状況に伴い支援内容を随時変更していくなど常に生活全体の状況把握に努め、現状に即した形での対応を心がけてきた。また、精神疾患のある利用者も増えてきていることから、精神面でのケアの必要性も高くなってきており、これまでの身体介護や生活援助に留まらず、専門医との連携や助言による対応を随時取り入れながら、見守りや声かけ等の支援体制の強化を行い個別ケアの充実を図り、利用者全体の集団生活においても調整を行いながら対応してきた。また、利用者主体で運営している『清流園互助会』については、利用者にとって心身共に無理の無い活動内容での取り組みを考え、社会参加の一環としても地域の自治会事業として行われる公民館清掃や市民一斉清掃などの参加を計画し個々の心身機能に応じた参加を行い社会の一員としての取り組みも継続して実施している。

個別処遇については、利用者お一人おひとりの心身機能に合わせたグループ配置により、各グループそれぞれの機能や特性を生かした処遇を行うことができ、利用者の状態把握や信頼関係の構築へ繋げている。また、身体機能低下防止への取り組みについても、生活リハビリを中心に朝の会や余暇時間を利用した体操や・レクリエーション活動をプログラムとして計画的に実施することにより、生活意欲の向上にも繋げることができていると思われる。さらに、養護老人ホームにとっての課題でもある認知症の重度化やADLの低下等についても、常にグループ全体の状況把握を行い利用者とのバランスを調整するなどして、発生する課題について解決に結びつけることができている。

また、利用者個々の課題については、パッケージプランの活用により残された課題を抽出しプラン化することで統一したケアを提供し、電算化による記録効率の向上による情報収集により課題解決に向けて具体的に取り組みを行うことができたと思われる。

『ふれあいの里』としての事業所間取り組みについては、清流園・幼稚園・児童クラブ・じょいすてっぷ（障害者福祉サービス事業所）の4施設からなる交流連絡会を中心に年度計画を行い、世代間交流を積極的に行えるよう計画し実施に向けて取り組んできた。また、地域交流に対しては、松ノ木田地区との連携を密にし、夏祭りを中心とした各種行事の参加や協力等を通じて交流を図るよう努めたが、新型コロナウイルス感染の対策継続により実施とはならなかった。今後も情報発信とともに松ノ木田自治区民として、利用者による地域への働きかけや参加について支援していきたいと考えている。

② 介護予防と事故・感染防止

令和4年度については、機能訓練として生活リハビリを中心に各種レクリエーションを実施し、利用者に無理のない活動内容で身体機能の維持、並びに急激な低下の防止を図った。事故防止については、積極的にヒヤリハット報告を提出することで、事故に繋がる要因の検証を行い再発防止策の取り組みを実施してきた。しかし、利用者全体の心身機能の低下・認知機能低下に伴い、企画内容による参加率の低下や見学のみの方も多くなってきていることから、企画内容の工夫など、状況に合わせた変更が今後の課題となってきた。

また、感染防止については、『新型コロナウイルス感染症』動向を常に確認しながら対策強化を行い、うがい・手洗い・消毒等の感染予防の徹底に加え、『宮崎市感染症状況』を確認することで、インフルエンザや感染性胃腸炎などの感染症の増減にも注意しながら年間を通して家族や訪問者の面会の中止や限定的に場所の設定を行う『制限付き面会』など、状況に合わせた対応を行うことで施設利用者や職員が感染することなく経過することができた。また、各種交流についても外部からの感染進入の予防を徹底するため、その都度内容を変更するなどして対応を行った。現在のところ施設利用者や職員への感染は無く経過している。今後も状況に応じた対策強化を継続して行っていくことで自立支援において重要となる利用者の健康維持を図っていきたい。

そのほか、職種間の連携についてもスムーズに行なうことができ、それぞれの部署においても責任者を中心に報告・連絡・相談を密にし、適切かつ計画的にサービス提供が遂行されるよう状況把握を行いながら取り組むことができた。

③職員の資質向上

今年度においても各種の職場外研修（オンライン研修等）への参加、感染症対策を含め園内研修を計画的にも行い自己研鑽に努めた。今後もより一層の充実を図るとともに、メンタルヘルス研修を初めとする職員健康管理についても順次参加を進めることで健全な職場づくりを目指したい。

また、職員の資質向上については、介護技術面は勿論のこと、各種スキルの向上に努め電算化への取り組みも継続して行うことで、記録時間の短縮や記録内容の充実に取り組み、利用者の情報をデータ化することで職種間の情報の共有ができ、状態把握や課題に対しての科学的なケアの提供を実践することができた。更に、随時パソコン入力技術向上のための指導を行い入力技術の向上を目指すことにも取り組むことができ、タブレット端末による現場での記録効率化により、速やかな記録作業を行い時間短縮に向けての新たな取り組みも実施することができた。

④苦情解決・サービス向上

利用者からの訴えや要求については、積極的に受け入れる姿勢で取り組み処遇

に反映させてきた。また、利用者ご自身で相談や訴えることができない方に対しては、職員が寄り添い思いを汲み取ることを心がけ、そのほかご家族の訪問時などにご希望を伺うなど積極的に取り組みを行なってきた。しかし、苦情内容については、利用者像の変化（生活歴や習慣など）から、ご理解を求めることの難しい事例も増えてきていることから、宮崎市担当課を中心とした関係機関との連携を強化し、報告・連絡・相談を速やかに行うことでトラブルの拡大防止に繋げている。

個人情報保護についても職員への周知徹底を行い、情報発信・開示については利用者本人、もしくは身元引受人の同意を取る等の慎重な対応を心がけ、利用者の権利擁護や施設の信頼性を確保する観点からも重要な課題として取り組むよう努めることができた。

2) 介護士

1. 個別援助・自立支援の取り組み

(1) グループケアの推進

利用者の有する能力に応じて、個々の自立した日常生活の充実を図り、グループ毎の特質を生かしながらビジョンを持って現行のケアプランに基づいたサービスを展開するとともに、措置制度と特定施設利用者の記録等、チェック体制の強化に努めた。

(2) 介護予防の取り組み

- ① リハビリについては、要介護者にならないよう、日常生活機能向上のための生活リハビリを中心に各グループ朝の会での体操や、グループ独自の運動リハビリメニューで実施を行って予防に努めた。
- ② 口腔ケアについては、チェック表を記録する事で、個々の把握ができた。また利用者の意識も高まり食後の歯磨き、義歯の洗浄等も定着してきた。また医師、歯科衛生士による定期往診、残歯のある希望者に対し、週1回虫歯予防の為に個別のブラッシング指導を実施することで利用者の意識が高まり、合わなくなりあきらめていた義歯の調整や義歯の作成も要望の合わせ支援することができた。
- ③ 食事については、利用者の嗜好に合わせたメニューの提供を可能な限り実施し、食事形態についても、その時々状況に合わせてすぐに対応できた。また、ADLに応じた自助具の活用などの検討により、摂取量の増加や誤嚥を減らすことができ、健康維持管理を行うことができた。今後も更に各職種間で連携の充実を図り、利用者一人ひとりが自分らしく生きていく為の援助に努めたい。

(3) ケアプラン

- ① パッケージプランを基に、清流園独自のケアプランを活用し、それに基づいたサービスを展開する事で、ニーズ及び課題が把握でき、

改善に向けた取り組みに繋がっている。またプラン作成に当たっては利用者の意見を重視し、利用者、家族の同意の共にプランの作成に努めた。

- ② 外部サービス利用型特定施設として、介護サービスを利用されている19名の利用者におけるサービスの充実を図ると共にパッケージプランを作成し実施している。

2. 生きがい対策

- ① 園内喫茶やふれあいの里での世代間交流は利用者の楽しみであり、園内喫茶では栄養課と食事サービス委員会のメンバー協力の元、四季折々工夫をこらした装飾やお菓子をいただく楽しみを提供することができた。毎年、実施しているふれあいの里敷地内にある畑を利用しての幼稚園との芋ほり交流については、新型コロナウイルス感染予防対策の為、清流園で芋を育て、交流はできなかったが大きく育った芋については園児が行事として収穫することができた。園児が収穫した芋については、清流園と幼稚園で分け、清流園については、焼き芋会を実施し収穫祭を楽しむことができた。
- ② ふれあいの里行事として幼稚園、児童クラブ、じょいすてっぴとの交流会や地域との交流の場として計画した「夏祭り」については、新型コロナウイルス感染予防対策から実施することはできなかったが、今後も地域交流の場としての行事を計画し、地域社会のふれあいの場として有意義な時間を過ごすことができるよう取り組んでいく。

3. 事故防止

利用者の認知症の進行・ADLの低下に伴い、歩行中の転倒・車椅子、ベッドの転落・滑落事故等の防止対策として、補助具の工夫、チェックシートによる多発時の把握、巡回と見守りの強化で対応した。特に転倒、滑落事故が増えてきていることから、多発時間のチェック、事故報告書による事故内容の分析を行い事故防止に対応した。今後の課題として、事故をより未然に防止するための方法として、離床感知センサー・衝撃緩和マットレス等の備品の必要性も視野に入れ事故を未然に防いでいく取り組みを行っていく。

※令和4年度 事故報告・ヒヤリハット件数については、事故防止委員会報告に記載する。

感染症対策については、居室・浴室・廊下・手摺り・吐物等の消毒に努め、集団感染防止を防ぐための感染防止マニュアルの周知徹底を図り、利用者への対応としては、マスクの設置・うがい・手洗いの励行に努めた。

4. 苦情処理

苦情については、日常の苦情受付を中心に利用者間の会話の中での言葉にも耳を傾け、利用者の意見については、互助会会議を月1回開催し、意見が反映されるよう取り組み、サービスの向上のために全利用者からのアンケート

トも実施した。また、性格の不一致や生活暦・習慣の違いなどからの利用者間のトラブルについては、傾聴を中心に話し合いの場を設けるなどの対応に加え、グループ替えや席替えを行い対応した。今後も細かいトラブルに耳を傾け迅速に対応できるよう観察していく必要がある。

令和4年度 清流園アンケート調査

回答 48

実施月： R5年4月

総括							
雰囲気について	良い	75%	悪い	4%		無回答	21%
人間関係について	良い	60%	悪い	15%	時々悪い	0%	無回答
行事について							
頻度について	丁度良い	56%	多い	2%	少ない	10%	無回答
内容について	楽しい	60%	楽しくない	4%	まあまあ	0%	無回答
外出・外泊について	問題なし	42%	手続が面倒	4%			無回答
その他							

食事							
献立について	満足	67%	不満	10%		無回答	23%
盛り付けについて	良い	79%	悪い	4%		無回答	17%
味付けについて	丁度良い	67%	濃い	6%	薄い	8%	無回答
おかずの量について	丁度良い	69%	多い	13%	少ない	8%	無回答
温かさについて							
ご飯	丁度良い	71%	熱い	0%	冷たい	15%	無回答
おかず	丁度良い	71%	熱い	2%	冷たい	10%	無回答
その他							

入浴							
回数について	丁度良い	69%	多い	2%	少ない	15%	無回答
時間について	丁度良い	83%	早い	0%	遅い	0%	無回答
お湯の温度について	丁度良い	75%	熱い	0%	冷たい	2%	無回答
更衣室の温度について	丁度良い	77%	暑い	0%	寒い	2%	無回答
その他							

洗面所・トイレ							
それぞれの数について	丁度良い	73%	多い	2%	少ない	8%	無回答
掃除が行き届いているか	良い	75%	悪い	8%			無回答
その他							

職員							
身だしなみについて	良い	85%	悪い	0%		無回答	15%
言葉遣いについて	良い	75%	悪い	4%	時々悪い	0%	無回答
その他							

回答して頂いた方、定員50名中48名（入院者1名、アンケート実施時の欠員1名）パーセンテージについては有効回答内での計算

アンケート結果について

今回のアンケートについては、調査時の在園者49名のうち、入院者1名を除く48名の方から何らかのご回答を頂いた結果となった。アンケートに関する無回答の数については、「どちらとも言えない」というご意見の他、高齢化や心身機能の重度化が進み回答できる方が減少してきていることが挙げられる。今後は、そのような方々のご意見や思いをどのように吸い上げていくかが今後の課題である。

今回のアンケートの結果から、ご満足いただけなかった内容として、施設雰囲気や人間関係については、利用者の方々の生活暦や性格・価値観の違いから個々の生活スタイルの違いによるものが大きいと思われ、普段の生活においての人間関係が原因と思われるトラブル等の対応が時折見られる。今後も速やかな対応を行い個々の心身の状態を把握しコミュニケーションを十分にとることで安心して生活できる環境を更に整備していく。また、食事関連については、献立や味付に関する内容で評価が分かれたところではあるが個々の健康状態による調理対応など栄養管理についても、個別の説明などを通して理解を求めていく。また、食事の温度などに関する御意見もあり、ご意見について可能な限り対応できるよう食事サービス委員会を中心として調理業務を委託している日清医療食品とも協力しながら満足度の向上を目指していく。また、職員の対応に関するアンケート内容についても、少数ながら『言葉遣いが悪い』とのご意見もあることから、日々のコミュニケーションによる『慣れ』などで入居者を不快にさせているケースもあると思われる。今後もコミュニケーション技術や接遇スキルの向上に取り組んでいく。その他、少数ではあるが満足に至っていない意見のあったサービスについても、調整や変更を行うことでより一層のサービスの向上に努めていく必要がある。

3) 各グループにおける報告

1. ひまわりグループ

※活動目的

家庭的雰囲気の中で生活し、各種活動などを行うことで、各利用者の的確なニーズやADLの状態を把握しQOLの向上を図る。

※取り組み

①ケアプランに添った援助内容の実施

- ・食事摂取量を把握し、食事形態の変更及び要望など（居室配膳）の対応。
- ・精神面や身体面の状態を把握し個々に合ったプランを計画にあげ、モニタリングや評価、定期的にプランの見直し変更を行い、援助に繋げている。

②個々のADLを把握し、リハビリ体操や個別メニューを行い、生活リハビを主とし、それを継続しながら体力と筋力維持を図る。

③衛生面では、身体の清潔保持は元より、居室内の消毒や清掃、また口腔ケア等感染防止に努め声かけし援助を行う。

- ・口腔ケアでは、毎食後の歯磨きを促し必要な方には、歯科でブラッシングの指導を施行する。また、定期的に職員による居室内の消毒や清掃、コップ類の消毒。

④余暇の充実（レク活動・クラブ活動・散策・外出など）

- ・行事やグループでの活動参加
- ・個人においては、園の外に散策・外出をされていたが、全国で感染症が流行した為、感染防止対策で外出や外泊は控えてもらい感染防止に努めている。
- ・手芸等実施
手芸クラブ～季節に応じた壁面作り。行事に向けての作品作り
- ・週 1 回、職員送迎付き添いの買い物実施予定だったが、全国で感染症が流行した為、感染防止対策で買い物は職員が代行し感染防止に努めている。

⑤各部署との連携を図り健康面、生活上の問題やストレスの軽減・精神的サポートを援助する。

※成果

①施設生活において、その人らしい生活を過ごしてもらうように、声掛けや傾聴しながら精神面、身体面の観察を行い必要なケアに繋げる事が出来た。

- ・職員（栄養士、看護師、介護士）同士で連携を図り、食事摂取量を把握し、食事形態の変更及び、精神面や身体面共に観察し必要に応じて居室配膳を行い個々の要望などの対応を行う事が出来た。

②朝の会（体操）を実施や朝の会参加出来なかった利用者には居室に訪室し様子を観察することで利用者一人一人のその日の体調の把握が出来ている。また、朝の会でする体操が日課となり継続する事により筋力を保つことが出来ている。また、利用者同士のコミュニケーションに繋がっている。

- ③口腔ケアでは、毎食後の歯磨きを促し必要な方には、歯科でブラッシングを施行する事で口腔内が清潔に保つことが出来、個々の状態の把握が出来た。
- ・居室清掃は、個人でされている方が多いが、必要時に職員が定期的に消毒と掃除を行う事で、清潔に保つ事が出来た。
- ④行事やクラブ活動やレク活動の参加や個人ではトランプ遊び植木の手入れをされている。また、施設用の洗濯物たたみやタオル干しや手芸クラブで季節の作品作りの協力をもらい、自分が出来ることを人に褒められそれぞれが役割を持ち貢献することで、生活への意欲が出て、自信へと繋がり満足し、精神安定につながっている。
- 行事での外部慰問は全国で感染症の流行により感染防止対策で外部からの慰問は中止していて行事の内容を検討し開催できる行事は行っている。感染防止対策の為、自由な外出や外泊や面会が出来ない事によりストレスに繋がっていて全職員で理解を求めている。
- ⑤他利用者の言動が理解できず利用者同志のトラブルなどがあり、全職員（施設長・相談員・看護師・介護士）で対応している。利用者の生活上での不満の訴えや要望に合わせて業務内容、行事、クラブ活動の検討と内容変更を行い対応している。

※今後の課題

- ・グループ内の年齢や体力、認知度の幅を考慮した上でのグループ活動の実施（余暇時間の充実）を行い、身体機能の維持、向上。
- ・社会的参加に向けての意欲向上と実施
- ・ケアプランに添ったサービスを展開し、モニタリングを行い定期的な見直し変更を行い個別処遇の充実に努め、利用者本位のサービスの実践
- ・清掃の徹底。冷蔵庫保有者や買い物を外からされる方や差入れ等の食品に対する衛生面の管理
- ・看護師と連携を図り、精神面や身体面の観察や皮膚トラブル等の早期発見早期治療と完治
- ・一人一人を尊厳し個別ニーズの把握や精神疾患や認知機能低下のみられる方の理解を求め、コミュニケーションを図りトラブルが起きないように精神面での援助
- ・感染症の感染防止対策と対応の理解と協力によりストレスに繋がっている為、ストレスの軽減。
- ・個々の性格や病状の把握を行い、その人に合ったケアの提供し生活の質の向上。

2. まつグループ

1. 活動目的

まつグループでは、年齢が 75 歳～100 歳（2 名）の方が共に生活をされている。認知症や精神疾患、慢性疾患など、それぞれに身体機能や健康状態の低下がみられており、多種多様なサービス提供が必要となってきた。そのため、個々のニーズを的確に捉え、直接的・間接的に多方面からアプローチを行う事で、生活の質（QOL）が維持できるよう個々に必要な支援を行う。

特に、グループ利用者の多くを占める、精神疾患を伴う認知機能低下に対するアプローチについては、不安や混乱する心理を理解し、コミュニケーションを通して寄り添うケア、傾聴、受容を行うことで安心した生活の確保に努める。ケアについては、グループ内だけではなく施設全体としての統一したケアが必要なことから他職種連携によるケアの実践に取り組んでいく。

更に、認知機能は低下していても身体的機能は維持出来ている方、反対に認知機能は維持できているが、生活意欲の低下が懸念される利用者に、介護予防に対する必要性の理解を求めながら、生活リハビリによる心身機能の維持および回復をねらいとする活動を実施する。

2. 取り組みと成果

①生活のリズムを整えながら、ケアプランに基づいた援助の展開

取り組み

- ・個々のケアプランに基づいた援助及び介助
- ・6 か月でモニタリングを実施し、必要なニーズに合わせた援助、介助の実施

成果

個々の状態に応じたケアプランを作成し、それに基づいたサービスを展開する事で、利用者の残存機能を最大限に活かしながら、生活の質の維持に努める事ができた。

②住空間の清潔保持に努め、安心・安全な環境づくり

（見守りの充実とセンサーマット・お守り型センサーの確認）

取り組み

- ・点検・汚染時の清掃、週1回の居室内消毒（棚・床）
- ・離設の可能性のある利用者は、お守り型センサーの所持
- ・所在確認及び見守り
- ・転倒リスクのある利用者に対しては、センサーマットの設置

成果

個々の身体状態に合わせ、自立、一部介助、全介助を行い清潔保持に努

めることができた。毎週土・日曜日には消毒の日を設けて、居室内の消毒・ポータブルトイレ・コップ類の消毒を実施した。

離設の可能性のある利用者に対しては、身元引受人の承諾を得てお守り型センサーを所持していただき、所在確認を行うことで、事故防止に繋げることができた。必要時には近況報告を行い、家族との連携を図ることができた。さらに、転倒リスクの高い利用者に対しては、センサーマットの設置を行う事で、安全の確保に繋げることができた。帰宅願望等の訴え聞かれ、徘徊される利用者もあり、状況に応じて付き添ったり、他グループスタッフに見守りを依頼することで、安全に生活を送っていただくことができた。

③心身機能維持及び回復を図る活動の実施

(生活リハビリ、遊بریテーション・口腔ケアなど)

取組み

- ・心身機能の現状維持を図る為の体操（毎朝のリハビリ・ラジオ体操）
- ・車椅子、歩行車、歩行器などを使用した生活の中でのリハビリの実施
- ・毎食後の口腔ケアの実施

成果

遊بریテーションについては、新型コロナウイルス感染症対策の為、1年を通して実施できなかった。グループ全体で、車椅子や歩行車使用の利用者が増加し、その分日常生活動作での介助を必要とする方や見守りを必要とする利用者が増え、リハビリ体操を実施する事は難しかった。生活リハビリを通して個々の能力に合った福祉用具などを使用してもらうことで、その利用者の能力が十分に発揮できるよう努めた。転倒リスクの高い利用者については、見守り体制の強化や看護師との連携を図り状態把握に努めることができた。

口腔ケアについては、うがいができる方、綿花で清拭をする方とさまざまである。嚥下促進や毎食後の口腔ケアを行う事で、口腔内の清潔及び機能維持を図ることができた。

④自己決定を尊重しながら、残存機能が活かせる援助の展開

(福祉用具等を用いながら活動動作・動線を確保する)

取組み

- ・週1回、買い物代行実施
- ・日常生活に於いて、自分で出来ることを取り組めるよう助言しながら、充実した余暇活動、茶話会の実施（表1）。

表 1

4月	5月	6月	7月	8月	9月
	母の日 茶話会	父の日 茶話会		かき氷 茶話会	
10月	11月	12月	1月	2月	3月
		クリスマス 茶話会			お疲れ様 茶話会

成果

買い物は、新型コロナウイルス感染症対策にて、代行購入を行った。

「自分で買物がしたい」という利用者は少なく、代行にて満足できている様子である。

茶話会では、季節やイベントに合わせたお菓子や、飲み物、音楽等を提供することで、季節感を味わってもらうことができ、コミュニケーションツールにもなった。

⑤自立支援を主体とし、必要に応じた食事・排泄・入浴介助の実施

取組み

《食事》

- ・個々の残存機能を活かしながら、自己摂取を促す声かけ、介助を行う
- ・栄養課及び看護師との連携のもと、体調、身体状態に合わせて食事形態を検討する

《排泄》

- ・個々の体調、状態に合った介助により、スムーズな排泄を促すと共に排便状況を把握する
- ・看護師と連携しながら健康管理を行う

《入浴》

- ・大浴槽と家庭用浴槽を使用し、個々の残存機能を最大限に活かしながら状態に合った入浴介助を実施する
- ・皮膚の観察を行い、トラブルの早期発見により良好な皮膚状態を保つ

成果

《食事》

個々の体調・口腔内の状態に合わせた食事形態を提供することで、食事・水分の摂取量の確保が図れた。見守りが必要な方、介助を要する方等、状態に応じて対応を行った。また、食事チェックを行う事で、体調の変化など早期発見にも繋げることができた。

《排泄》

グループ利用者16名全員が軽失禁パットをはじめとする紙パンツやパ

ット等を使用している現状である。認知機能低下や身体機能低下により介護の重度化が進み、排泄介助が必要な利用者も増加してきている。定時に洗浄・清拭を実施する事で清潔保持に努めることができた。認知機能低下や身体機能低下により介護の重度化が進み、排泄介助が必要な利用者も増加してきている。また、介助の必要な利用者、口頭で伝える事ができない利用者には排便間隔や動きを把握し、看護師と連携しながら下剤の調整し排便コントロール行った。

《入浴》

個々の残存機能に合わせて、必要な利用者に対しては介助を行うことで、安心して入浴できるよう努めた。また、入浴時に皮膚観察を行い、看護師との連携を図ることで、皮膚トラブルの早期発見・治療に繋げることができた。

◎他職種及び各グループとの連携

取組み

- ・看護師、栄養士、相談員、園務員など、他職種と連携
- ・他グループ職員への申し送りや協力依頼を行う

成果

高齢化や認知機能の低下により介護の力量が増加する中、今年度も新型コロナウイルスの流行に伴い、感染症対策をとりながら各部署との連携を図っていった。マスク装着・手指消毒の徹底を行いながら、職員同士では必要以上のコミュニケーションを控えつつ、情報の共有を図り、協力依頼を行った。

3、今後の課題

- ・感染症の感染防止対策と対応の理解と協力を得る。
- ・残存機能を最大限に活かし、生活のリズムを維持しながら、生活の質を高めるようなケアプランの作成及び、それに基づいた援助を行っていく。
- ・看護師・医師と連携を取りながら、体調観察・安全管理のもと、身体機能の維持を図れる援助の実施と環境作りを行っていく。
- ・個々のプライバシーを守りながら安心して生活できる環境作りに努める。
- ・その人らしい生活スタイルが維持できるよう、他職種との連携を図る。
- ・居室にこもりがちな利用者に対するこまめな訪室、声かけ等を行い、コミュニケーションを取りながら余暇時間の充実を図る。

3. さくらグループ

1、活動目的

さくらグループは、要介護者を中心に、認知症や精神疾患などの疾病を持つ利

用者が混在して生活されている。今後も、高齢に伴って更に心身機能や認知機能の低下が予測される為、より専門性のある介護技術や知識を持って生活を支援していく必要がある。

このことを踏まえ、生活のほとんどが介護を要する状態になった方でも『その人らしく』生活していただけるよう、個々のニーズを的確にとらえ、自立支援を念頭においた介護や支援を提供し、心身機能の維持に努める。また、体調観察・確認を行い、日々の生活の中で感染症予防に努め、楽しみややりがいを感じられる取り組みを通し、有意義な時間を作ると共に、『安心して生活出来る』環境作りに取り組んでいく。

2、 取り組みと成果

① 「自立支援」を念頭に、残存機能を活かしたケアの展開

取り組み

- ・ 集団でのリハビリ体操・ラジオ体操の実施と個々の状態に合わせた生活リハビリの実施
- ・ ハンドケアの実施
- ・ 食後毎に口腔ケアを実施（歯ブラシでのブラッシング、舌苔のケア、綿花でのケア、口腔内の保湿）

成果

利用者に合わせた生活リハビリを取り入れ、残存機能を活用することで自然に無理なくリハビリができた。また、毎日実施する事で ADL の低下防止・維持に努めた。更に、ハンドケア実施し血行を促進し、浮腫の軽減や皮膚トラブルの防止に繋がっている。毎食後には必ず口腔ケアの声をかけ、歯磨きやうがい、義歯洗浄の徹底が図れた。清潔を保つ事で、誤嚥性肺炎の予防や、口臭の予防、食欲増進にも繋がった。義歯や残歯、舌苔の状態を把握し、松田歯科と連携をとりながら口腔機能の維持が図れている。

② 三大介護である食事・排泄・入浴の個別ニーズの把握と実施

取り組み

- ・ 各利用者に合わせた食事形態の検討、補助具、体調不良時の検討
- ・ 介助が必要な利用者への食事介助の実施
- ・ 食事量を把握し必要時の栄養補助食品の提供と嗜好に対しての提供の工夫
- ・ 利用者それぞれにあった排泄介助と入浴介助の実施

成果

利用者の口腔機能状態、また、突発的な体調不良に合わせた食事形態の提供を行う事で、安全に楽しい食事を提供する事ができた。介助が必要な利用者へは状態に合わせた全介助や一部介助、見守りを実施する事で食事への意

欲、また身体機能の維持へと繋がった。食事がすすまない時には、本人の好きな物や高カロリーゼリー、を提供するなど少しでも食べてもらえる工夫をし、必要者には OS-1 を提供することで栄養・健康状態の維持、向上を図ることができた。排泄については、排便コントロールの必要な利用者を対象に、記録を通して把握を行い、看護師との連携を図った。バルーンカテーテル留置の利用者は感染対策を行い、定時の尿破棄、インアウトを記録し体調把握に努めた。排泄介助時、入浴介助時に皮膚状態の観察を行い、看護師との連携を図ることで軟膏塗布など適切な処置を行う事ができた。体調不良時には状態に合わせて清拭、更衣介助を行い清潔保持に努めた。

③ ケアプランに基づいて、個性を尊重した個別ケアの実施

取り組み

- ・各利用者の担当職員が生活全般のケアプランを立案、作成
- ・個々のニーズに合わせたサービスの提供
- ・申し送りを活用し介護スタッフで情報を共有しながらケアの統一を図る

成果

個々の心身状況に応じたケアプランの立案・作成・サービスを提供することにより、生活の質の向上が図れた。申し送りファイルを活用することで、正確な情報を介護スタッフ全員が同じように共有することができ、ケアの統一を図ることができた。

④ 他職種との連携を密にし、体調変化時の早期発見及び適切な処置や対応

取り組み

- ・日常の健康状態を把握し、コミュニケーションを取ることで異常時の早期発見に努める
- ・異常発見時には看護師と連携し、迅速、安全に適切な処置を行う
- ・看護師・栄養士・相談員と情報の共有を図る

成果

訪室時の状態観察やバイタル測定等により日常の健康状態を把握、コミュニケーションを取ることで病気の初期症状に対応することができた。それぞれの職種が役割を持ち、連携のチームケアを行う事で適切な対処・処置ができた。

また、退院時のサマリの提示、バイタル測定値等の情報の共有で、緊急時に対応できている。また、皮膚状態の機能低下により血種ができやすくなっており、早期発見、処置をしてもらうことで改善へと向かうことが出来ている。

⑤ 認知症及び精神疾患のある利用者への精神的ケア及び所在確認の強化

取り組み

- ・デイコーナーに職員が常駐し、安心安全に過ごせる環境作り
- ・不穏時は傾聴し職員との関わりを持つ事で精神安定に努める
- ・散策を実施し気分転換を図る

成果

個別のコミュニケーションや、傾聴・受容する事で精神安定を図ることが出来た。また、認知症状が重度で感情や語気が荒くなる方も傾聴する時間を長く確保し、寄り添う事で表情も穏やかになり落ち着かれている。利用者間のトラブルも職員が速やかに仲介することで、大事には至っていない。声掛けや見守りをしながら、状況を把握し対応する事で不穏状態の解消に努めている。精神疾患のある利用者の離設や病状悪化がみられ、センサー器具の設置等により所在確認、見守り強化を図り状態把握に努めた。生活状況をまとめたものを病院受診の都度作成し、医療機関との連携を図るとともに、入院治療による専門的なケアに繋げることができた。感染症対策にて外出規制があり、散策は実施できなかった。徘徊される利用者については、安全面を考慮し付き添い支援を行った。

⑥ 終末期を迎えた利用者に対するターミナルケアの習得と実施

取り組み

- ・本人とご家族の意向を尊重したケアの検討及び実施
- ・主治医・嘱託医・看護師・栄養士・介護士間での連携と状態に応じた細やかな対応の実施
- ・こまめに観察を行い、24時間の経過記録を活用した状態の把握と適切な援助の実施

成果

多職種との連携を図ることで、本人の状態や意思、ご家族の希望に沿った細やかな援助を実施することができた。

⑦ 住環境の衛生管理を徹底し、整理整頓、清潔保持に努める

取り組み

- ・次亜塩素酸による居室やコップなどの消毒
- ・毎日ごみ捨て、居室の整理整頓を行う
- ・天気の良い日は空気の入替えを行う

成果

今年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から今まで以上に、居室清掃、次亜塩素酸でのモップがけや拭き掃除等を行った。室内の整理整頓もでき衛生管理を図ることができた。利用者も比較的、健康で安全な生活を送ることができた。

⑧ **多くの方が参加でき、楽しめる内容の行事やレクリエーション活動の実施**
取り組み

- ・全体でのスポレクや誕生会の実施。グループ内でのレク活動の実践
- ・余暇の時間を利用した折り紙や塗り絵の実施

成果

今年度は新型コロナウイルス感染予防にて行事が少なかったが、開催時には日常ではみられない活発な様子や豊かな表情もみることができていた。人と接する機会があることが、刺激となって心身機能の維持や精神安定が図られていた。余暇時間での折り紙や塗り絵は、認知機能や心身の機能低下により、出来る利用者が少なくなってきたが、出来る範囲で職員と一緒に楽しまれている様子も見られていた。

⑨ **笑顔で思いやりのある声掛けやスキンシップにより信頼関係を築き、家庭的な雰囲気作りに努める。**

取り組み

- ・個別のコミュニケーションや、傾聴・受容する事で精神安定を図る
- ・こまめな訪室

成果

個々に合った生活援助及び介助を実施すると共に、清流園における毎日の生活の中で「メリハリ」や、「ゆとり」ある生活の流れを作ることで、「快適で安心した生活」を楽しんで過ごしていただけるように努めた。居室で過ごすことが多い利用者にはこまめな訪室を行い、デイコーナーでの見守り対象者については、介助時や余暇時間に1対1のコミュニケーションを図り、傾聴・受容する事で精神安定を図ることが出来た。

3、 今後の課題

- ・新型コロナウイルス感染症などの感染予防・防止対策の実施。
- ・高齢化に伴い介護度の重度化が進んでおり、心身および認知機能の低下等による事故や容体の急変のリスクも高まっている。状態観察および他職種との連携により、リスクを予測し対策を講じていく。
- ・認知症、精神疾患の利用者が混在している。心身の状態安定の為、必要な利用者それぞれに合った精神的なケア及びフォローが図れる体制作り。

2 健康・保健衛生事業報告

1) 看護師

① 健康管理

令和4年度における健康管理体制については、定期的な嘱託医の診察を中心に年2回の『利用者・職員健康診断』の実施により個人の健康状態を把握することができ早期対応に繋がっている。また、清流園には精神疾患や認知症を有する利用者も多く、利用者お一人おひとりとのコミュニケーションを通して、精神面での状態把握に努め専門医との連携により症状悪化を最小限に留めるよう取り組みを実践した。また、記録の電算化により病院受診時など必要があれば健康状態のみならず各職種が記録した生活状況記録など、瞬時に必要とされる部分を書面化することができ、受診の際はスムーズな情報提供が継続してできており医療機関との連携強化にも繋がっている。

②健康増進

施設における健康増進対策については、看護・介護の連携を中心に利用者個々の生活スタイルを把握し、日常の生活リハビリを中心として口腔ケア・遊戯リレーション・その他行事への参加する事で生活に意欲が持てるよう取り組み、介護予防を目指すことで、健康増進に繋がっていると思われる。今後も職員間の連携をとりながら一層努力していきたい。

年々、利用者の高齢化と共に重症化は進んでおり体力の低下が目立っている。精神的にも不安定な方が多いことから、今後も利用者が生きがいのある楽しい生活を過ごしていただけるよう、多職種連携により健康増進に取り組んでいく。

2) 保健衛生

感染症対策については、『宮崎市感染症状況』を常に確認し、感染症の流行が予想される時期を前に感染症委員会を中心としての勉強会や消毒体制の確認、面会制限等の時期を協議し、施設内感染の予防を行ってきた。インフルエンザについては、例年に無く感染レベルが低かったこともあり利用者への感染もなく経過することができた。感染性胃腸炎についても、現在のところ感染が見られることは無く経過している。しかし、『新型コロナウイルス感染症』については、国内・県内と著しく感染が広がり、常に状況に合わせた対策強化が必要となり、対策が目まぐるしく変化する中で施設内への感染を防ぐ為インフルエンザ対策を基礎に予防対策を実施してきた。現在のところ感染者も無く経過しているが、今後も関係機関の示す対策を常に確認し対策強化に繋がっていきたいと思う。

3 食事サービス事業報告

1) 栄養士

「たのしい」「おいしい」「安全・あんしん」「ターミナル（思い出作り）」・・・など、『食事サービス』にかかる要望は多彩である。

このように多様化する利用者への食事の提供は考えた以上に複雑であることから、他職種（相談員・看護師・介護士など）、及び調理従事者（栄養士・調理職員）と食事についての情報を共有するとともに、協力しながら利用者ニーズに沿った食事を提供することができた。

委託給食も定着し、一様化された食事（料理）は「おいしい」「柔らかくて食べやすい」「盛り付けがよい」と利用者からの声も聞かれる。

企業給食の食材や献立は、一時期の『給食から食事へ・・・』『家庭的な食事の提供』という考え方から少し後退した感もあるものの、利用者の高齢化の進展により、身体（嚥下）機能の低下、虚弱化を伴うことから、毎度一様な食事を提供することが何より体に負担のかからない食事なのかもしれないと感じる。

次年度も引き続き、多職種及び調理従事者と緊密な連携を図り、今年度以上の『安全・安心』『期待感のある食事』を提供できるよう努めていきたい。

新型コロナウイルス感染症対策として年間を通じた慰問行事をなくし、外部との接触を極力抑えた。また、施設内行事についても感染リスク低減の観点から前年度に引き続き分散しての実施であったが利用者には楽しんで過ごしていただけた。

栄養管理では、個別の必要エネルギー量の算出と喫食量調査、体重測定を実施し栄養評価を行った。加えて看護師・介護士と連携し、個々人の生活サイクルと提供食について検討を行い、利用者にあった食事の提供に努めた。

個別に栄養面談を実施し健康への気づきや情報提供に努めた。

(1) 楽しい食事

歳時記に応じた食事の提供。

グリーティングカードで季節感を演出。

選択食、イベント食の実施。

(2) おいしい食事

栄養、味、安全性に充実した食事の提供。

嗜好調査による個別対応（適切な代替え食の実施）。

(3) セーフティな食事

食事状況の観察と食形態、食器具の検討。

喫食状況の記録と評価の実施。

他職種との食事情報の共有。

- 食事相談（個別対応）の実施。
- (4) ターミナルケアにおける食事
多職種協働で対応した。
- (5) 給食事業の効率的運営
調理経験豊富なスタッフの定着。
料理品質の標準化と個別の対応の実践。
給食設備機器の日常点検の実施。
食事サービス委員会議事の報告と改善策の検討、改善。
衛生巡回（委託先衛生指導員により6月に、実施）

2) 食事に係る衛生管理

食事に関わる衛生管理は、食品衛生マニュアルを活用することにより適切に実施した。

食中毒防止については、感染症委員会、事故防止委員会主催の施設内研修を通して職員へ周知した。

特に、新型コロナウイルス感染対策では危機管理の観点から、ディスポ食器の準備を行うとともに、三密を回避するため食事時間と場所の区分について周知した。

万が一、施設内で感染症が発生した場合は、職員に対し、感染拡大防止を図ることを目的に厨房内の入室も制限することを周知した。

常時、アルコールによる除菌を徹底した。

利用者の冷蔵庫内の衛生管理については、各利用者の冷蔵庫の庫内温度の確認、衛生点検を実施し、1年を通し安全性を確保した。

調理従事者（栄養士及び調理職員）は、就業時の心得から食品の調理作業工程、食器、調理器具の洗浄、殺菌に至るまで「大量調理施設衛生マニュアル」に基づくとともに、「N's 衛生管理マニュアル」を遵守して業務にあたった。また1回/年、委託先による衛生研修会を実施した。

なお、昨年度、新型コロナウイルス感染症予防対策のため延期していた委託先衛生指導員による衛生巡回についてリモートにて、今年度は6月に実施した。

4 職員研修

- ① 職場内研修体制については、業務を通しての日常の指導や新人研修を中心として実施し、感染症発生時期前には感染症委員会を中心に職員研修会を開催するなど、令和4年度も計画的に研修を実施することができた。また、パッケージプランを活用し、分かり易く具体的なケアプラン作成の充実や、電算化による記録ソフトについてもパソコン入力技術など更に習熟に向けて、業務を通して個別指導を行うなどの取り組みを行い、業務の効率化や簡素化に努めてきた。また、事故防止や感染防止・対応等についてもヒヤリハットや事故報告の情報の共有を行い、職員全体への周知を図ることができた。
- ② 各自における自主的勉強会や検討会についても積極的に行なわれ、利用者への処遇方針や技術・知識の向上が図られた。また、各種研修支援についても、必要に応じた学習図書を購入や時間的支援を行うことができた。更に、職員個々については、随時職員のスキルアップや業務目標設定・メンタルヘルスなど上司との面談を通して、意欲的に業務に取り組めるよう組織力の向上も行うことができた。
- ③ 職場外研修体制については積極的な研修参加を予定していたが、『新型コロナウイルス感染対策』により、研修が中止となるなど十分な参加ができなかったが、今後も計画的な参加を予定し、個々のスキルアップに繋げていきたい。

5 地域交流

ふれあいの里施設交流連絡会（清武幼稚園・きよたけ児童クラブ・じょいすてっぷ・じょいわーくす・清流園）による世代間交流を中心に、様々な団体との年間を通しての行事活動等を計画し、利用者にも高齢者の役割を見出している。ただける良い機会へと繋げている。

また、地域福祉拠点としての整備については「ふれあいの里地域連絡協議会」における防災会議や夏祭りへの協力依頼、施設見学、ボランティア等の積極的な受け入れ等を通じて、地域からの協力を得るとともに清流園への理解を深めて頂くことを心掛けている。

また、清流園が加入している松ノ木田自治会の活動についても利用者・職員共に積極的に参加を計画し、地域住民との交流が図れるよう取り組んでいる。

今後もふれあいの里事業所間の連携を中核とし、地域及び行政とのより密接な連携が求められる。

6 実習及び研修

実習・研修の受け入れについては、事前に実習生や研修担当者との綿密な打ち合わせを行い、実習計画を作成し計画的に行われ、実習効果の充実と効率化を図りながら高齢者福祉の理解を深めている。

また、実習生へ体験の場を提供するだけではなく、実習生から見た施設のあり方についての意見や疑問点を挙げて頂くことにより、体制・処遇へのフィードバックを図りながら、卒業後の職場決定の選択肢としてより一層福祉に興味をもてるよう職員と実習生とのコミュニケーション等の充実を図っている。

その他、実習・研修期間終了後におけるボランティアへの活動参加についても働き掛けを行っている。

※令和4年度については、感染対策により実習受け入れは無かった。

7 防災・防犯

定期訓練については計画に加え、毎月1回の防災設備及び避難経路確認点検を実施した。職員による各所の点検確認に加え、防災設備業者による点検も年2回実施されている。また、新任職員やパート職員に対しても園内防災設備の勉強会を実施し、有事の際には全職員が対応できる体制作りを行ってきた。

今後も利用者については避難経路の把握、職員については防災機器・AEDの操作手順の習熟をするため、繰り返し訓練を行っていく必要がある。

非常災害時の飲料・食料については給食業務を委託している日清医療食品管理の元、新旧入れ替えと収納庫の整頓を行っている。また、清流園は福祉避難所（二次避難所）としての役割も担っているが、実際の災害時は近隣住民などが直接非難してくることも予想される為、本来の避難場所への移動ができるまでの一時的な避難者用非常食の確保も行っており、段階的に備蓄を検討するとともにBCP（事業継続計画）の策定に取り組んだ。今後も東日本大震災及び熊本大震災を教訓として有事の際に備えるためにも今後も非常時の備蓄等について継続・強化して取り組んでいく。

また、入所施設における防犯対策では、年2回の安全確保・安全管理についての点検やマニュアルの見直しを行なった。また、平成29年度より取り入れた『110番緊急通報システム』により、有事の際に関係機関との速やかな連携が行えるよう対策強化を行っている。今後は、防犯についても定期的な訓練を行ない、施設入所者・職員の安全並びに財産を守ることを最大の目的として、訓練等を行なっていくこととする。

8 地域貢献

平成27年度から受託した「生活困窮者自立支援事業」について、就労訓練受入施設として要請に応じて清掃業務を通しての就労訓練の場の提供を行ない、積極的に取り組みを行っている。

また、平成29年1月1日より「みやざき安心セーフティネット事業」に参加し、これまで支援依頼を受けたケースについては、相談援助及び現物給付による経済的支援を行ない、対象者の自立支援を行なっている。令和4年度については、支援依頼は無かった。

その他、市民一斉清掃への職員の参加、加入自治会の敬老会への協力等行った。

今後とも各関係機関との連携の下、社会福祉法人だからこそ出来る地域貢献について、積極的に取り組んでいくこととする。

1 職員の状況

1) 職員の状況

令和 5年 3月31日

	施設長	事務員	生活相談員	介護職員	看護職員	栄養士	調理員	医師	夜間介護	合計
基準定数	1	1	1	5	1	1		(1)	0	10 (1)
現員数	1	1	2	11(3)	2(2)	1	委託	(1)	(3)	17 (9)

医師は非常勤嘱託医、非常勤職員については（ ）別掲

2) 嘱託医

区分	所属医療機関名及び診療科目	勤務の形態	備考
亀山伸博医師 (非常勤)	亀山記念クリニック 内科	週1日(水曜日) 12:45~13:45 5週目を除く	嘱託医

3) 研修の状況

①施設外研修 ※新型コロナウイルス感染予防対策による参加中止あり

	研修期間	日数	研修・会議名	職種	主催
	令和04年06月15日	1日	メンタルヘルス研修 (リーダー)	介護士	宮崎県社会福祉協議会
	令和04年07月20日	1日	福祉職員のための医学 基礎知識 (Web研修)	介助員	宮崎県社会福祉協議会
	令和04年08月01日	1日	令和4年度宮崎市給食 施設等栄養士研修会 (Web研修)	栄養士	宮崎市健康管理部 健康支援課
	令和04年08月01日	1日	令和4年度九州老人福 祉施設職員研修 (Web研 修)	施設長	全国老人福祉施設 協議会
	令和04年09月01日	1日	県央ブロック生活相談 員研修 (意見交換)	生活相談員	養護県央ブロック

	研修期間	日数	研修・会議名	職 種	主 催
	令和04年09月09日	1日	2,022年度第1回栄養士委員会研修会	栄養士	日本メディカル給食協会
	令和04年09月30日	1日	認知症の基本理解研修	介護士	宮崎県社会福祉協議会
	令和04年09月30日	1日	認知症の基本理解研修	介助員	宮崎県社会福祉協議会
	令和04年10月12日	1日	県央ブロック看護職員研修（意見交換）	看護師	養護県央ブロック
	令和04年10月28日	1日	県央ブロック事務職員研修（意見交換）	事務員	養護県央ブロック
	令和04年11月07日	1日	年末調整説明会	事務員	宮崎県社会保険協会
	令和04年11月10日	1日	第1号会員研修会（防災）	看護職員	宮崎防火管理協議会
	令和04年11月16日	1日	県央ブロック栄養士・調理員研修（意見交換）	栄養士	養護県央ブロック
	令和04年11月11日	1日	九社連老人福祉施設協議会施設長会（Web研修）	施設長	九社連老人福祉施設協議会
	令和04年11月22日	1日	県央ブロック支援員研修（意見交換）	介護士	養護県央ブロック
	令和04年12月09日	1日	令和4年度高齢者虐待対応研修(Web研修)	生活相談員	宮崎市地域包括ケア推進課
	令和04年12月09日	1日	令和4年度高齢者虐待対応研修(Web研修)	介助員	宮崎市地域包括ケア推進課
	令和05年01月19日	1日	問題解決能力スキルアップ研修(Web研修)	介護士	宮崎県社会福祉協議会
	令和04年01月27日	1日	メンバーシップ研修 チームリーダー編(Web研修)	介護士	宮崎県社会福祉協議会
	令和05年02月01日～ 令和05年02月14日	1日	宮崎県老人福祉サービス研究大会（Web研修）	栄養士	宮崎県老人福祉サービス協議会
	令和05年02月01日～ 令和05年02月14日	1日	宮崎県老人福祉サービス研究大会（Web研修）	介助員	宮崎県老人福祉サービス協議会
	令和05年02月13日	1日	社会福祉従事者共済制度事務説明会	事務員	宮崎県社会福祉協議会

②その他の研修及び会議・出張（出向）

	研修期間	日数	研修・会議名	職 種	主 催
	令和04年04月11日	1日	法人業務執行理事会議	施設長	法人
	令和04年04月22日	1日	実習指導者会議（Web会議）	生活相談員	宮崎学園短期大学
	令和04年04月09日	1日	法人業務執行理事会議	施設長	法人
	令和04年05月16日	1日	法人監事監査	施設長 事務員 生活相談員	法人
	令和04年05月27日	1日	学校関係者評価委員会	施設長	清武幼稚園
	令和04年06月01日	1日	法人理事会	施設長	法人
	令和04年06月13日	1日	法人施設長会	施設長	法人
	令和04年06月21日	1日	法人評議委員会	施設長	法人
	令和04年09月12日	1日	法人業務執行理事会議	施設長	法人
	令和04年10月11日	1日	法人施設長会	施設長	法人
	令和04年10月20日	1日	法人創立記念式典	該当職種	法人
	令和04年11月02日	1日	宮崎市納骨堂慰霊祭	施設長	明星園
	令和04年11月21日	1日	法人施設長会	施設長	法人
	令和04年11月	書面	学校関係者評価委員会	施設長	清武幼稚園
	令和04年12月06日	1日	法人施設長会	施設長	法人
	令和04年12月14日	1日	法人理事会	施設長	法人

	令和05年02月06日	1日	法人施設長会	施設長	法人
	令和05年02月15日	1日	学校関係者評価委員会	施設長	清武幼稚園
	令和05年03月07日	1日	法人施設長会	施設長	法人
	令和05年03月16日	1日	指定管理に関する宮崎市との協議	施設長	法人
	令和05年03月22日	1日	法人理事会	施設長	法人
	令和05年03月30日	1日	法人運営会議	施設長	法人

③施設内研修

研修年月日	研修内容	講師	参加人数
令和4年4月14日	令和4年度 事業計画周知説明会	施設長 各職種	12名
令和4年5月17日	高齢者虐待防止研修 ～復習研修～	生活相談員	12名
令和4年6月30日	食中毒予防対策研修	日清医療食品インストラクター	12名
令和4年7月26日	熱中症について	看護師	12名
令和4年8月25日	イラストで見る『介護事故事例集』 を通して事故リスクを考える	統括課長	12名
令和4年10月19日	自由課題『清流園のつながり』 新型コロナウイルスがもたらした変化	生活相談員	13名
令和4年11月30日	感染防止研修 インフルエンザ・ノロウイルス 新型コロナウイルス	看護師	12名
令和4年12月20日	高齢者虐待防止研修『復命研修』 令和4年度高齢者虐待対応 研修から	主任生活相談員	11名
令和5年1月12日	事故対策研修『マニュアル確認』	主任生活相談員	12名
令和5年2月9日	施設防犯研修	生活相談員	11名

4) 施設内会議

会議等の名称	実施期日	参加職種	進行・記録者	会議内容
1. 職員会議	毎月1回 (下旬) 又は、随時	全職種	生活相談員	翌月行事説明 各種連絡
2. ケース会議	各グループ 年2回 又は、随時	生活相談員 看護師 介護士 栄養士	生活相談員 介護士	問題ケース等の 検討・研究会 各種連絡
3. 全体処遇会議	毎月1回 (中旬)	全職種	生活相談員	処遇会議 各種行事説明 各種連絡
4. 事故虐待防止・身体 拘束適正化委員会	毎月1回 (中旬) 又は、随時	生活相談員 看護師 介護士 栄養士	介護士	アクシデント・イン シデント等の検討会 各種連絡
5. 感染症予防・ま ん延防止委員会	毎月1回 (下旬) 又は、随時	生活相談員 看護師 介護士 栄養士	看護師	感染防止に関する 検討・研究会 各種連絡
6. 食事サービス委員会	毎月1回 (下旬)	介護士 栄養士 調理員	栄養士	翌月行事食説明 給食処遇上の 検討会
7. 互助会委員会	毎月1回 (下旬)	生活相談員 介護士	生活相談員	互助会収支報告 生活相談
8. サービス担当者会議	随時	サービス提供責任者 計画作成担当者 生活相談員 看護師 介護士 栄養士	計画作成担当者	施設サービス計画 の検討・研究会 各種連絡
9. 業務改善委員会	随時	施設長 各部署長	生活相談員	業務に関する討議
10. 経営対策委員会	随時	施設長 各部署長	生活相談員	運営に関する討議

2 利用者の状況

1) 月別入園退園状況

月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
月初在園	49	49	50	49	50	50	48	49	50	49	49	49	591
退園	1	0	1	0	0	3	0	0	1	0	0	1	7
入園	1	0	1	1	0	0	2	1	0	0	0	0	6
月初欠員	1	1	0	1	0	0	2	1	0	1	1	1	9

2) 入退園者内訳

性別 区分	入園者				退園者				
	自宅	他施設	病院	計	死亡	自宅	他施設	病院	計
男	1	0	0	1	3	0	0	0	3
女	4	1	0	5	4	0	0	0	4
計	5	1	0	6	7	0	0	0	7

3) 年齢構成

令和 5年 3月31日現在

性別	50	60	65	70	75	80	85	90	95	100	計	最低	最高	平均
	~59	~64	~69	~74	~79	~84	~89	~94	~99					
男	0	0	2	0	1	2	3	0	0	0	8	67	88	80.0
女	0	0	0	1	2	6	11	11	6	3	40	70	101	89.7
計	0	0	2	1	3	8	14	11	6	3	48	67	101	88.0
%	0	0	4	2	6	16	28	22	12	6	96			
計	0	2	4	22	17	3	48	67	101	88.0				
%	0	4	8	44	34	6	96							

4) 在園期間

令和 5年 3月31日現在

性別 在園	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上	計	1人当り 平均 在園期間
	男	1	1	1	2	1		
女	5	6	8	13	6	2	40	6年8ヶ月
計	6	7	9	15	7	4	48	6年8ヶ月
%	12	14	18	30	14	8	96	

5) 月別外泊者数

月 性別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
計	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2

6) 月別外出者数

月 性別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	5
女	0	0	3	1	0	1	2	2	0	0	0	1	10
計	0	0	3	1	0	1	3	4	2	0	0	1	15

※園外レク・職員付き添いの買い物送迎は含まず

7) 面会者数

月 性別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	0	1	0	2	3	5	1	2	1	0	1	2	18
女	8	10	12	10	9	15	13	23	20	13	18	15	166
計	8	11	12	12	12	20	14	25	21	13	19	17	184

※コロナ対策における窓越し対応面会含む

8) 身元引受人別

令和 5年 3月31日現在

種別 性別	子	兄弟 姉妹	養子	甥・姪	義理の子	孫	その他	なし	計
男	2	3	0	0	0	0	2	1	8
女	26	9	1	0	1	0	2	1	40
計	28	12	1	0	1	0	4	2	48
%	56	24	2	0	2	0	8	4	96

9) 年金等の受給別

区分 性別	国民年金					厚生年金				恩給	共済	無年金	その他	計
	老齢年金	通算老齢年金	老齢福祉年金	遺族年金	障害基礎年金	老齢年金	通算老齢年金	遺族年金	障害年金					
男	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	1	7
女	24	1	0	2	3	8	1	1	0	4	2	2	0	46
計	27	1	0	2	3	11	1	1	0	4	2	3	1	53

※受給の重複あり

10) 医療保険別

区分 性別	国民健康保険	後期高齢者医療	生活保護 (医療単給)	計
男	2	5	1	8
女	1	37	2	40
計	3	42	3	48

11) ADL (日常生活動作) 状況

令和 5年 3月31日現在

区分 性別	歩 行						食 事			入 浴			着 脱 衣			排 泄								
	自力歩行	一部介助歩行	シール杖	歩行器	全介助	全介助	自力	一部介助	全介助	自力	一部介助	全介助	自力	一部介助	全介助	自立	ポータブルトイレ使用	パンツ式オムツ使用	尿探りパット使用	全介助	安楽尿器使用	ストーマ	バルンカテーテル使用	
男	2	0	2	2	0	2	6	2	0	3	4	1	5	2	1	6	3	2	3	1	0	0	0	1
女	4	0	1	13	1	22	21	14	6	7	18	16	14	16	11	15	1	33	30	15	0	0	0	0
計	6	0	3	15	1	24	27	16	6	10	22	17	19	18	12	21	4	35	33	16	0	0	0	1
%	12	0	6	31	2	49	55	33	12	20	45	35	39	37	24	42	8	70	66	32	0	0	0	2

※排泄については重複あり

12) 入浴状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数		8	9	8	9	9	9	9	8	9	9	8	8	103
入浴	男	78	87	80	81	77	76	72	60	63	63	64	71	872
	女	278	302	290	317	323	309	316	318	335	349	302	327	3766
希望せず	男	7	6	5	6	1	1	0	2	0	0	0	0	28
	女	6	5	2	4	3	0	3	2	5	2	8	8	48
中止	男	1	1	1	1	1	1	0	3	1	0	0	0	10
	女	5	0	2	3	0	4	8	5	4	1	6	10	48
入院	男	4	5	0	1	10	4	0	0	8	9	0	0	41
	女	46	35	12	18	12	19	32	8	22	17	12	8	241
外出	男	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
外泊	女	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	4
計	男	90	99	86	90	89	82	72	65	72	72	64	71	952
	女	335	342	308	342	338	332	360	334	366	369	328	353	4107

月・金曜日に入浴、水曜日に清拭を実施

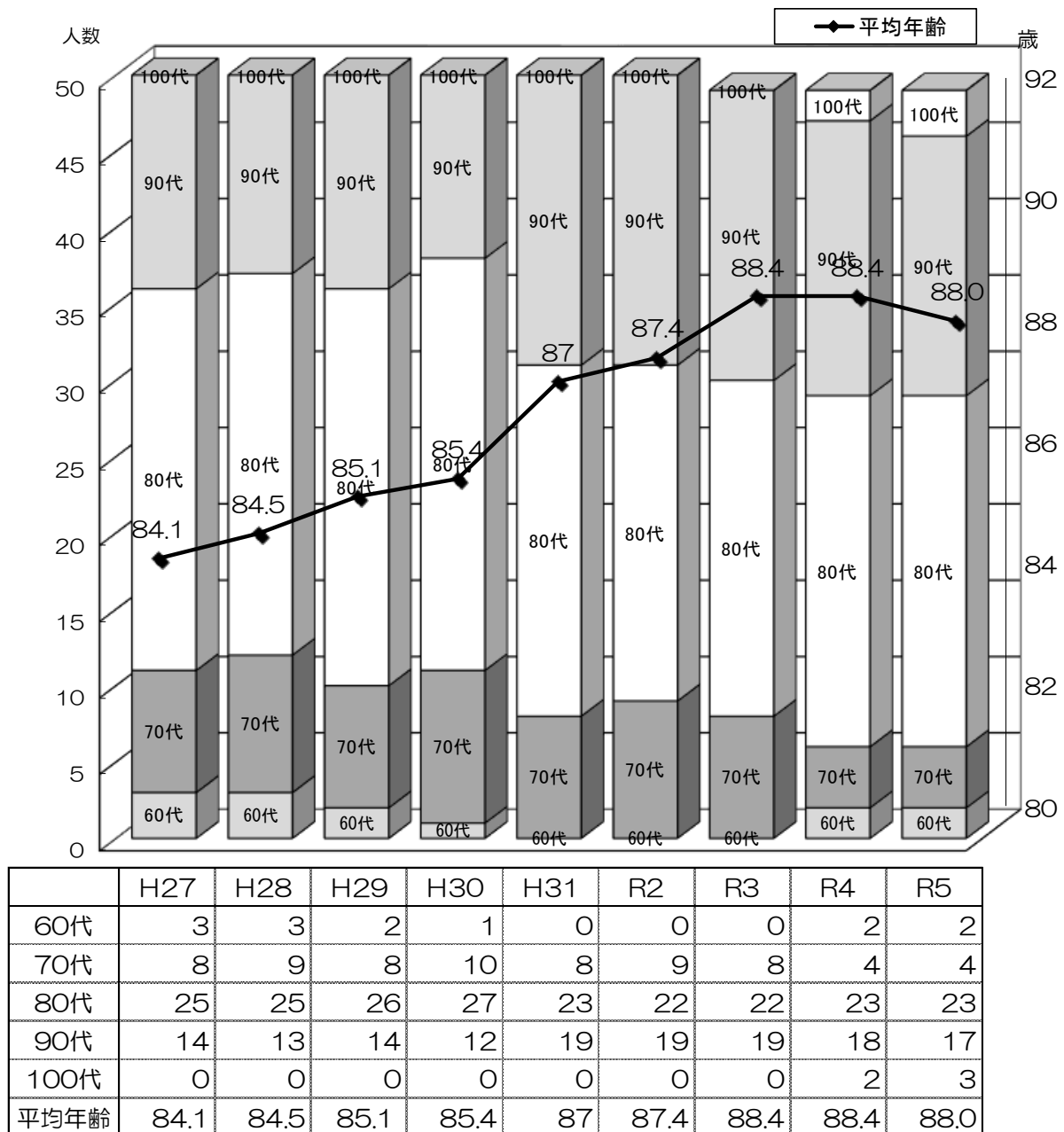
13) 介護保険利用実績

外部サービス利用型特定施設入居者生活介護（利用延べ日数）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	満床数	稼働率
4月	11	210	142	0	120	483	570	84.7%
5月	8	237	160	0	116	521	589	88.5%
6月	30	237	180	0	120	567	570	99.5%
7月	31	227	186	0	124	568	589	96.4%
8月	31	224	186	0	124	565	589	95.9%
9月	1	240	151	0	120	512	570	89.8%
10月	0	230	206	0	124	560	589	95.1%
11月	0	227	210	0	120	557	570	97.7%
12月	0	248	189	0	105	542	589	92.0%
1月	31	217	218	0	93	559	589	94.9%
2月	28	168	240	0	84	520	532	97.7%
3月	31	186	278	0	93	588	589	99.8%
計	202	2651	2346	0	1343	6542	6935	94.3%

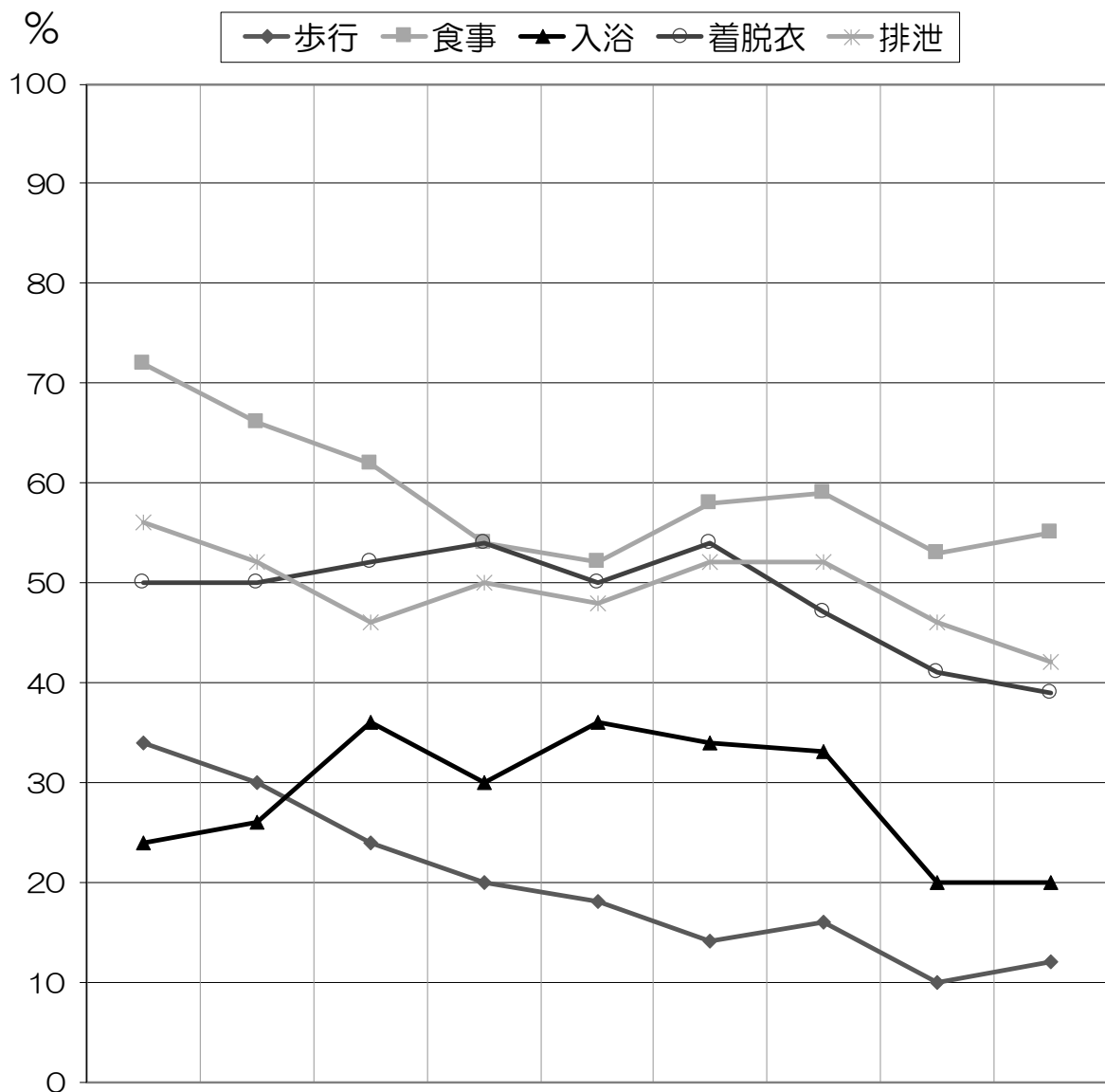
14) 年齢構成等・ADL自立の推移

年齢構成と平均年齢の推移



※いずれも4月1日現在

各ADLにおける自立の推移



※いずれも4月1日現在（単位％）

3 保健衛生の状況

1) 園内状況

① 年間救急車依頼件数

病変 3名 事故 0名 計 3名

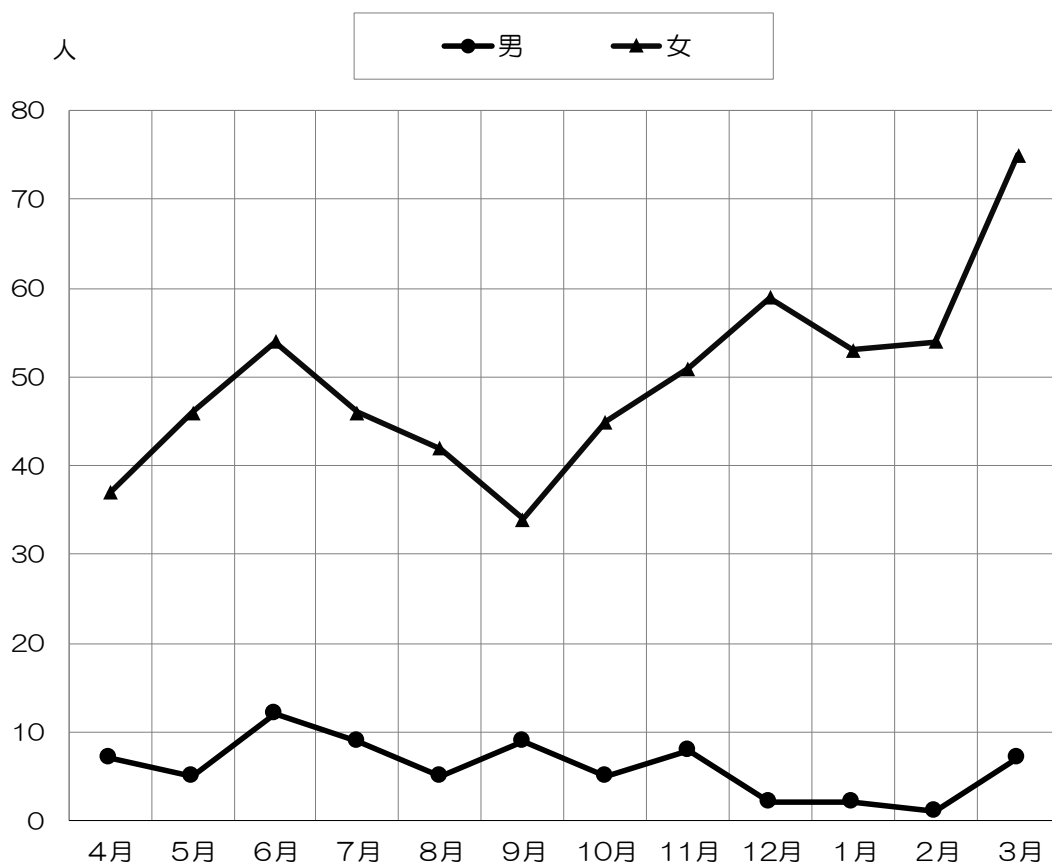
② 医療器具装置者及び処置件数

経管チューブ挿入者	0名
胃瘻造設者	0名
人工肛門造設者	0名
人工膀胱造設者	0名
在宅酸素使用者	6名
インスリン自己管理者	2名
ペースメーカー装置者	2名
バルンカテーテル留置者	2名
その他	0名

2) 定期診断等の実施状況

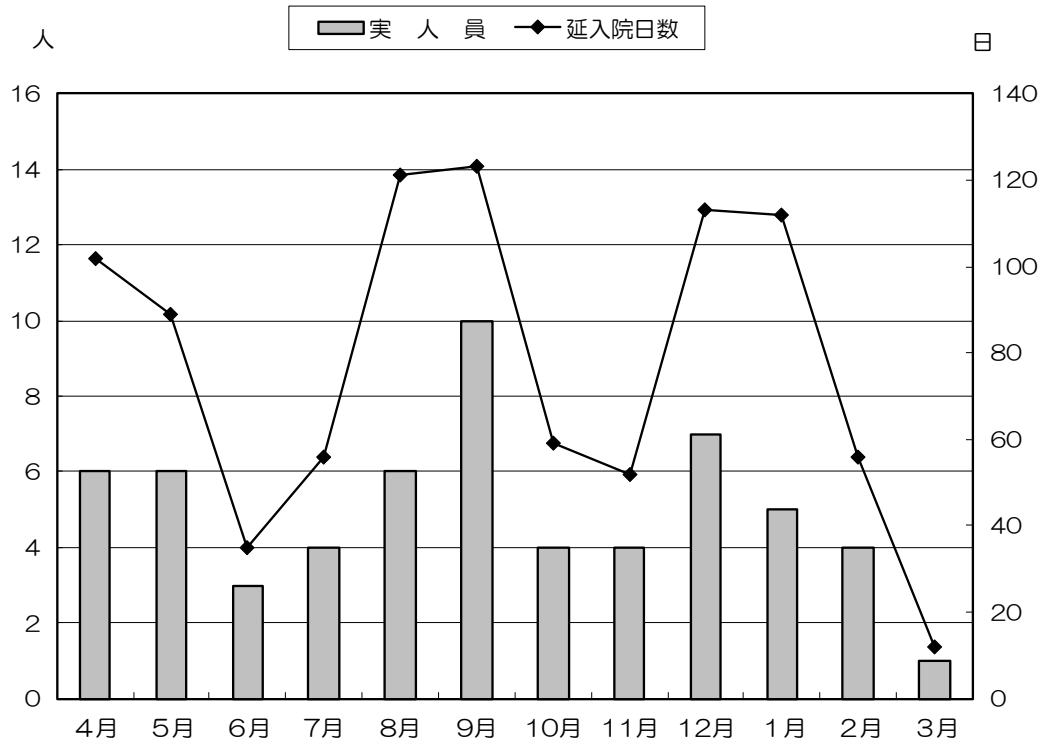
期 間	対象人員 (実施人員)	検 査 内 容	実施状況
令和4年4月1日 ～令和5年3月31日	50 (50) (嘱託医以外の 医療機関を含む)	問診、血圧、聴診	嘱託医 (週1回)
令和4年4月1日 ～令和5年3月31日	50 (50) (嘱託医以外の医療 機関を含む)	体 重 測 定	嘱託医 (月1回)
令和4年4月1日 ～令和5年3月31日	50 (49) (嘱託医以外の医療機 関を含む)	身 長 測 定	嘱託医 (年1回)
令和4年5月10日	50 (45)	検尿、採血、胸写	宮崎県健康 づくり協会
令和4年11月22日	50 (45)	検 尿 、 採 血	宮崎県健康 づくり協会
令和4年11月 2日 ～令和5年11月11日	50 (49) (嘱託医以外の医療 機関を含む)	インフルエンザ 予 防 接 種	嘱託医 各主治医

3) 通院治療状況



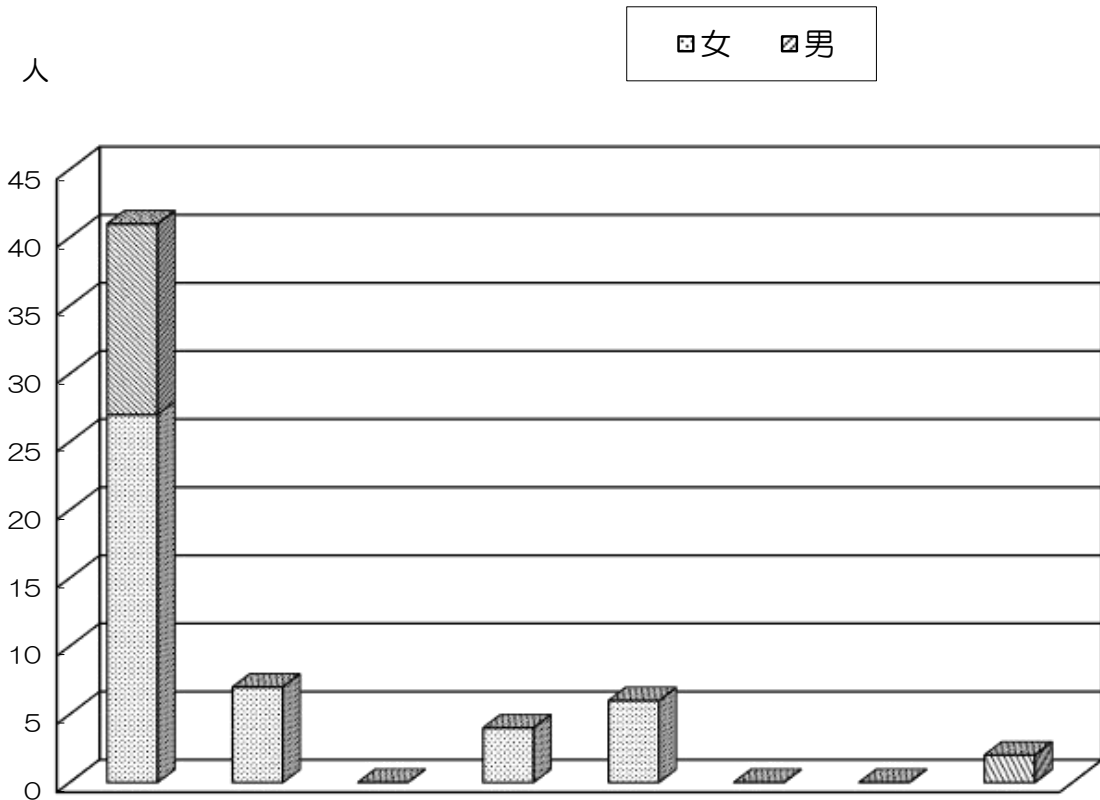
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科	男	5	3	8	6	4	8	5	3	1	1	1	3
	女	10	15	18	16	15	10	16	16	24	16	19	21
外科・整形	男	0	1	0	1	0	0	0	3	0	0	0	1
	女	11	9	19	16	20	10	10	15	17	16	16	21
歯 科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	1	4	5	6	7
眼 科	男	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1
	女	6	9	9	9	0	9	11	11	5	11	3	18
精 神 科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	8	9	8	4	7	5	6	3	7	5	6	7
皮 膚 科	男	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2
	女	0	1	0	1	0	0	0	2	1	0	4	1
泌 尿 科	男	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳 鼻 科	男	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
婦 人 科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0	0
そ の 他	男	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
小 計	男	7	5	12	9	5	9	5	8	2	2	1	7
	女	37	46	54	46	42	34	45	51	59	53	54	75
計		44	51	66	55	47	43	50	59	61	55	55	82

4) 月別入院状況



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実人員 (人)	男	2	1	1	1	3	4	0	1	2	1	0	0
	女	4	5	2	3	3	6	4	3	5	4	4	1
	計	6	6	3	4	6	10	4	4	7	5	4	1
延人員 (人)	男	2	1	1	1	3	4	0	1	2	1	0	0
	女	4	5	2	3	3	6	4	3	5	4	4	1
	計	6	6	3	4	6	10	4	4	7	5	4	1
延入院日数 (日)	男	10.0	18.0	2.0	2.0	49.0	34.0	0.0	1.0	30.0	31.0	0.0	0.0
	女	92.0	71.0	33.0	54.0	72.0	89.0	59.0	51.0	83.0	81.0	56.0	12.0
	計	102	89	35	56	121	123	59	52	113.0	112	56	12
平均入院日数 (日)	男	5.0	18.0	2.0	2.0	16.3	8.5	0.0	1.0	15.0	31.0	0.0	0.0
	女	23.0	14.2	16.5	18.0	24.0	14.8	14.8	17.0	16.6	20.3	14.0	12.0

5) 年間の疾患別入院状況



	内科		外科 整形		眼科		精神科		皮膚科		泌尿科		耳鼻科		その他		月計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
4月	2	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	6
5月	1	1	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	6
6月	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
7月	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
8月	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	6
9月	3	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	10
10月	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
11月	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
12月	2	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
1月	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
2月	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
3月	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	14	27	0	7	0	0	0	4	0	6	0	0	0	0	2	0	60
総計	41		7		0		4		6		0		0		2		60

6) 職員の定期健康診断等の実施状況

期 間	実人員	検 査 内 容	実 施 状 況
R 4. 4. 14 22	26	検便 5菌	臨床宮崎
5. 10	30	身長、体重、聴力、視力、検尿、問診、血液検査、心電図、血圧、胸写、(胃がん、大腸がん)	宮崎県健康づくり協会
5. 12 26	25 (1)	検便 5菌	臨床宮崎
6. 2 23	25 (1)	検便 5菌	臨床宮崎
7. 14 28	25 (1)	検便 5菌	臨床宮崎
8. 12 25	23 (1)	検便 5菌	臨床宮崎
9. 15 24	24 (1)	検便 5菌	臨床宮崎
10. 13 27	24 (1)	検便 5菌	臨床宮崎
11. 10 26	24	検便 5菌	臨床宮崎
11. 22	12 (夜勤者)	健康検査 血圧、身長、体重、検尿、問診	宮崎県健康づくり協会
12. 8 22	24	検便 5菌	臨床宮崎
R 5. 1. 12 26	24	検便 5菌	臨床宮崎
2. 9 24	23	検便 5菌	臨床宮崎
3. 13 27	24	検便 5菌	臨床宮崎

※5菌（赤痢菌、サルモネラ菌、チフス、パラチフス、腸管出血性大腸菌）

※実人員（）内は、給食関係職員のため2回検査実施

4 食事の状況

1) 栄養給与状況及び給食費

	エネルギー (Kcal)	蛋白質 (g)	脂質 (g)	加ゆみ (mg)	鉄 (mg)	ビタミ ン				1日当たり 給食費
						A(μgRE)	B ₁ (mg)	B ₂ (mg)	C(mg)	
R4.4月	1,476	59.0	38.3	835	12.3	891	2.81	1.53	101	756
5月	1,472	59.3	41.5	777	12.2	913	2.89	1.50	114	756
6月	1,440	58.2	38.6	788	11.9	891	2.81	1.50	105	756
7月	1,436	57.9	38.9	832	12.3	924	2.85	1.52	98	756
8月	1,459	55.7	41.5	799	11.9	923	2.80	1.54	93	756
9月	1,472	57.1	43.3	723	11.9	729	2.69	1.45	53	756
10月	1,475	56.9	42.5	743	12.1	650	2.70	1.44	57	756
11月	1,452	57.0	42.5	752	12.1	795	2.74	1.52	48	756
12月	1,465	56.0	42.8	778	11.9	775	2.72	1.45	71	756
R5.1月	1,449	56.6	41.2	770	12.4	870	2.77	1.53	78	756
2月	1,450	56.9	41.9	778	12.2	732	2.75	1.50	62	756
3月	1,414	53.1	40.9	749	12.2	916	2.60	1.48	46	756
平均	1,455	57.0	41.2	777	12.1	834	2.76	1.50	77	756
目標量	1,450	55.0	40.0	600	7.0	680	1.00	1.00	100	756

2) 給食対象者数

単位：人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
食数	46	46	48	47	46	45	45	47	46	45	47	48	46

3) 食事提供状況

①主食及び副食形態の状況

単位：人

米飯	粥	普通食		刻み食		ソフト食		ミキサー食	(R4.3.31 現在)
大盛り		4		1	1				160g(320g)
中盛り									140g
普通盛り		8	2	2	2	5		2	130g(240g)
小盛り		2	1	1	5	2	5	4	100g(200g)
超小盛							1	1	(100g)
合計		14	3	4	8	7	6	7	

※欠食者をのぞく

単位：人

②個別対応状況

	禁忌食品	対応者数
カロリー制限食	1400kcal 制限食	0名
塩分制限食	6g以下制限食	3名
血液凝固阻止剤服薬	納豆・クロレラ・青汁	1名
降圧薬服薬	グレープフルーツ	1名
腎機能低下	海藻類・ひじき	2名
食物アレルギー	生卵	8名
	果物（柿・桃）	1名
	青魚	7名
	そば	3名
主に嗜好によるもの	調味料	5名
	魚介類	2名
	牛肉・豚肉	2名
	麺類	6名
	野菜類	8名
	牛乳料理	3名
	納豆	6名
	カレー・シチュー類	7名

4) 行事食実施状況

年/月	行事	日	行事食
R4/4月	お花見	7	お花見弁当/昼食時
	郷土料理	28	山形県：にら鮭のあんかけ/雪菜の冷や汁/洋なし缶詰め
	昭和の日	29	(お祝い膳) 桜エビご飯/鶏肉と牛蒡のしぐれ煮/カリフラワーサラダ/すまし汁(はんぺん)
5月	八十八夜	2	新茶/お茶プリン
	憲法記念日	3	炊き込み筍釜飯/焼鳥/ブロッコリーマヨサラダ/清まし汁(青さのり)
	端午の節句	5	ピースご飯/豚肉バター醤油風味/ピーマンとえのきの和え物/味噌汁(麩)/こいのぼりゼリー
	誕生会	31	ちらしすし/まぐろの刺身/菜の花のお浸し/花麩の清まし汁/ブチケーキ/ダ' 1-1
6月	郷土料理	15	愛媛県：伊予さつま/せんざんぎ/清まし汁(青さのり)/みかん缶詰
7月	七夕	7	七色そうめん・肉団子の甘辛煮・梅しそおにぎり・七夕ゼリー
	海の日	18	梅しらす御飯/かぶと牛肉の味噌煮/えんどうレモンサラダ/長芋のすり流し汁
	誕生会	28	ちらし寿司/まぐろの刺身/白菜の酢の物/花麩の清まし汁/ロールケーキ/マンゴー缶詰/ダ' 1-1

年/月	行事	日	行事食
8月	土用の丑	4	うなぎの蒲焼き(実演)
	山の日	11	山菜釜飯/鶏肉じゃが/白菜のゆかり和え/清まし汁(はんぺん)
	盂蘭盆会	15	(精進料理) 稲荷寿司・精進煮・ほうれん草のレモン風味和え・いかまき汁
	郷土料理	23	埼玉県:かてめし/カレーコロッケ/薩摩芋のおろし和え/清まし汁(とろろ昆布)
	園内喫茶	30	『海の家』(かき氷) 感染症対策を講じて実施
9月	防災の日	1	炊き出し(利用者調理/豚肉のカレーライス・コンソメスープ(卵)・みかん(缶詰))
	敬老会	8	栗赤飯/豚角煮/まぐろの山かけ/茶碗蒸し/紅白なます/花麩の清まし汁/
	誕生会	29	うなぎちらし寿司/まぐろの刺身/茶そばサラダ/煮豆/清まし汁(えびつみれ)/白桃缶/スイーツブーケケーキ/ダース
10月	運動会	6	(行楽弁当) 五目御飯/鶏唐揚甘酢だれ/鮭塩焼き/エビチリ/厚焼き卵/紅白なます/花麩の清まし汁/抹茶0-10キ
	創設記念日	20	ちらし寿司/天ぷら盛合せ/まぐろの山かけ/茶碗蒸し/素麺の清まし汁/煮豆/練切り
	園内喫茶	27	スイーツバイキング
11月	外食行事	1	感染症対策にて施設内で『鰻のかば焼き』を実施
	文化の日	3	薩摩芋ご飯/鱈の照焼き/ささ身と野菜の酢味噌和え/けんちん汁
	勤労感謝の日	23	麦御飯/焼き栗コロッケ/オクラの胡麻和え/豚汁/マンゴー(缶詰)
	誕生会	24	ちらし寿司/まぐろの刺身/チキン信田巻き/茶碗蒸し/小花麩の清まし汁/煮豆/紅茶シフォンケーキ/ダース
12月	忘年会昼食会	22	忘年会バイキング
	もちつき	27	もちつき・ぜんざい
	大晦日	31	年越しそば(昼食)
R5/1月	元旦	1	おせち料理
	新年昼食会	5	新年昼食会(お弁当箱)/ちらし寿司・海老フライetc
	七草	7	七草粥
	鏡開き	11	ぜんざい
	誕生会	31	五目ご飯/天ぷら盛合せ/茶碗蒸し/煮豆/花麩の清まし汁/ショコラブディング/ダース
2月	節分	3	巻き寿司(恵方巻き)/鱈の蒲焼き/煮豆/えのき草の赤出汁
	建国記念日	11	ご飯/豚肉おろし醤油/白菜のおかか和え/味噌汁(いわしつみれ)
	園内喫茶		栄養士不在の為開催中止
3月	ひなまつり	3	桜ちらし寿司/金目鯛の山路焼き/茶碗蒸し/花麩の清まし汁/リンゴと桃のケーキ
	お彼岸	18	麦ご飯/鶏肉じゃが/春菊の錦糸和え/清まし汁(えびつみれ)
	春分の日	21	山菜ちらしご飯/味噌かつ/紅白なます/うすら卵の清まし汁
	誕生会	30	炊込みご飯/鯖の山かけ/もずくのかき揚げ/奈良漬/清まし汁(とろろ昆布)/シフォンケーキ/ダース
その他	※毎1日 赤飯の提供	※1回/毎月	選択食実施
	※奇数月に誕生会を実施	※1回/毎月	パンのメニュー

5) 嗜好及びニーズ調査結果報告

令和4年度 嗜好調査結果報告

調査期間 令和4年1月～
 調査対象 清流園入所者（48人/50人中）
 調査方法 聞き取り方式

	設問		人数	%
1.主食（米飯/粥）	炊き具合	やや硬い	0	0
		丁度良い	47	98
		軟い	1	2
	盛りきり量	多い	2	4
		丁度良い	43	90
		少ない	3	6
	温度	熱い	0	0
		丁度良い	47	98
			冷めている	1
主食（ばん）	好き		35	73
	嫌い		2	4
	どちらでもない		11	23
主食（麺）	好き		35	73
	嫌い		2	4
	どちらでもない		11	23
2.おかず	味付け	丁度良い	47	98
		濃い	0	0
		うすい	1	2
	盛りきり量	多い	15	31
		丁度良い	33	69
		足りない	2	4
	温度	熱い	0	0
		丁度良い	47	98
		冷めている	1	2
3.食事の満足度	嫌いな料理	ある	17	35
		ない	31	65
	嫌いな食材	ある	22	46
		ない	26	54
	食事残しますか	よく残す	11	23
		残さない	22	46
		時々残す	15	31
残される主な理由	嫌い	2	4	
	多い	3	6	
	拒否	0	0	
	義歯不具合	0	0	
	その他	21	44	
4.牛乳について	飲んでいる方 31名	多い	1	
		少ない	0	
		丁度良い	30	
	飲まない方 17名	嫌い	3	
		乳糖不耐症	9	
		その他	5	
5.食事時間	朝食 /現在のままだよい	46	95.8	
	昼食 /現在のままだよい	46	95.8	
	夕食 /現在のままだよい	46	95.8	

◆◆好きなご飯もの◆◆
 ・ちらしずし
 ・炊き込みご飯
 ・焼きめし

◆◆好きな麺類◆◆
 ・うどん
 ・そば
 ・うどん中華
 ・スパゲティ

◆◆食材と料理◆◆
 ・食材は多いとおっしゃるが、実際は代替える食材がある

◆◆利用者から希望のあったもの◆◆
 ・本根がまろ
 ・野菜炒め
 ・きゅうりとワカメの酢の物
 ・味噌汁
 ・味噌汁の回数を増やしてほしい
 ・パンの目を増やしてほしい

◆◆嗜好調査を実施して◆◆

聞き取りをしていくと殆どの方が食事にはほぼ満足していると回答をいただく。検査の結果からも味付けも安定し利用者にはおいしい食事が提供できていると思われる。さらに話を伺うと食材についてはいろいろな声が聞かれ『食べれないことはないが好きではない』との声が少数聞かれた。『生の野菜が食べられ嬉しい』『魚料理が増えて嬉しい』という声もいただきました。

配膳された食事は栄養もバランスよく組み立てられ味付けはいいと感じている。『大量調理なので、まあ、こんなものだ。』『季節感を感じられ、とても楽しみにしている。珍しい食事が出てくるので嬉しい』とおっしゃられていた。

昨年度『言っても変わらない』とおっしゃる利用者が少数いた。『美味しくなった』と利用者様の声も変化した。今後も食事への希望や意見が言える環境を整え、食事を楽しんでいただけるように工夫したい。

安全を考慮しての料理の仕込みは見た目、どの食品も同じように感じ食事への期待感からは程遠い（特に健常な利用者には）が行事や慣例の食事には季節感を盛った目で味わえる食事の提供に努めたい。

5 その他の状況

1) 全体行事及びその他の実施状況

年月日	行事内容	実施場所
R 4. 4/ 7	園内喫茶（花祭り）	園内（中庭）
4/26	風水害想定避難訓練	園内地
4/27	互助会総会	域交流スペース
5/ 8	母の日（カーネーション）	園内
5/10	利用者・職員健康診断	
5/31	誕生会（4月・5月）	食堂・地域交流スペース
6/ 5	松ノ木田地区一斉清掃	園外
6/19	父の日（バラの花贈呈）	園内
6/21	園内喫茶	園内
6/30	不在者投票（衆議院議員通常選挙）	園内
7/28	誕生会（6月・7月）	食堂・地域交流スペース
8/ 4	うなぎの蒲焼実演	食堂
8/ 9	お盆の法要（利用者のみ）	地域交流スペース
8/12	迎え火	玄関
8/16	送り火	玄関
8/30	園内喫茶（かき氷）	園内
9/ 1	防災食（炊き出し）	食堂他
9/ 8	敬老祝賀会	食堂・地域交流スペース
9/21	彼岸法要（利用者のみ）	地域交流スペース
9/27	第三者委員訪問（職員対応のみ）	会議室・他
9/29	誕生会（8月・9月）	食堂・地域交流スペース
10/ 6	秋の行楽弁当	食堂
10/20	法人創立記念式典（勤続表彰のみ）	皇寿園
10/25	防災訓練	清流園
10/27	スイーツバイキング	食堂
11/13	松ノ木田地区一斉清掃	園外
11/22	利用者・職員健康診断	会議室他
11/24	誕生会（10月・11月）	食堂・地域交流スペース
12/22	清流園忘年会バイキング	食堂・地域交流スペース
12/27	餅つき	食堂・園内

年 月 日	行 事 内 容	実 施 場 所
R 5. 1 / 5	新年昼食会	食堂・地域交流スペース
1 / 5	初会	地域交流スペース
1 / 7	七草粥	食堂
1 / 11	鏡開き	園内
1 / 31	誕生会（12月・1月）	食堂
3 / 23	彼岸法要（利用者のみ）	地域交流スペース
3 / 28	第三者委員訪問（職員対応のみ）	会議室・他
3 / 30	誕生会（2月・3月）	食堂・地域交流スペース

2) 生活援助活動

① 遊びリテーション

◎活動目的

レクリエーションを通して、身体機能・残存機能の維持・コミュニケーションを目的とするとともに、心身の自立の回復を目指す。

また、利用者がより主体的に活動でき、競うことより、一人ひとりの満足を目指し、楽しみながら体を動かす遊びリテーションを取り入れ実施する。

◎取り組み

①実施状況

全 体＝ ・介護士による遊びリテーションの実施（1回/月）
・運動会の実施（中止）

②実施内容

日	実施内容	ひまわり	まつ	さくら	合計
4月	新型コロナ感染防止症 対策にて中止	/	/	/	/
5月		/	/	/	/
6月		/	/	/	/
7月		/	/	/	/
8月		/	/	/	/
9月		/	/	/	/
10月		/	/	/	/
11月		/	/	/	/
12月		/	/	/	/
1月 2月・3月		/	/	/	/
備考	▼				

※運動会

新型コロナウイルス感染防止対策の為、運動会は中止となる。

◎成果

- 今年度も、新型コロナウイルス感染症対策により、開催自体できない状況が続いた。4月の内容としては「リハビリ体操」だったことから、各グループでの開催、実施を行った。以降も、感染症対策による行事開催の縮小により、全体での活動

は自粛する形となった。しかし、各グループ朝の会時のラジオ体操は毎日実施し、時間のある時にはリハビリ体操を行った。

◎今後の課題

- ・新型コロナウイルス感染防止対策の為全体での開催はできなかった。今後は、新型コロナウイルスに対して、色々な規制緩和があることから、感染状況や時季に合わせた開催の検討が必要である。
- ・自立されている利用者から、要介護度 5 の利用者と生活レベルの差が大きくなっていることや、利用者間のトラブル、また精神疾患や認知機能低下のみられる利用者も混在して生活されていることから、参加者全員同じ内容での実施が難しい状態である。

②歯科検診

◎目的

- ①口腔内を清潔に保ち虫歯や歯周病の様々な病気を防ぐ。
- ②食事をおいしく摂って頂く。
- ③義歯作成により咀嚼、嚥下機能を改善する。

◎取り組み

- ①協力歯科医師や歯科衛生士との連携をとり、歯や口腔衛生について指導を仰ぐ。
- ②歯科衛生士によるブラッシングや指導を必要に応じて指導して頂く。
- ③義歯はなるべく使用するよう指導する。
- ④義歯を義歯ブラシで洗う習慣付けをする。出来ない人に対しては、介助して口腔内の清潔を保つ。
- ⑤毎食後うがい、歯磨きの施行を徹底する。
- ⑥舌の清潔保持。(舌ブラシや指ブラシを使用する)
- ⑦歯ブラシ、舌ブラシ、義歯ブラシ、歯間ブラシ、うがい用コップなどの衛生管理に努める。
- ⑧口腔、入れ歯などに異常を訴えた時、速やかに歯科衛生士と歯科医師との連携を図る。

◎令和 4 年度 歯科検診利用状況 R4 年 4 月 1 日～R5 年 3 月 3 1 日

4月	20日 3名	27日 1名				
5月	18日 5名	25日 3名				
6月	22日 2名					
7月	13日 5名	20日 4名				
8月	17日 3名	24日 3名	31日 4名			

9月	8日 3名	15日 4名	21日 2名	28日 2名		
10月	5日 5名	9日 6名	12日 3名	19日 4名		
11月	10日 5名	17日 3名				
12月	14日 4名	21日 3名	22日 2名	28日 3名		
1月	3日 2名	4日 3名	9日 1名	11日 5名	18日 3名	26日 3名
2月	1日 4名	8日 2名	16日 4名	22日 4名		
3月	1日 4名	8日 2名	16日 1名	21日 2名	30日 3名	

◎成果・反省

- ①歯科医師や歯科衛生士から、必要な方は診てもらい、指導を受けながら口腔内のケアに繋げる事が出来た。
- ②ブラッシングの必要な方は毎週水曜日の受診時にお願いし実施した。
- ③認知機能低下で義歯を認識できず装着できない方や痛み等により装着できない方以外は、義歯を使用してもらい安全に食事を摂って頂く事が出来た。
- ④認知機能低下や身体的機能低下で自己にて口腔ケアや必要物品が準備出来ない入居者に対しては、毎食後洗面所に誘導し、義歯や残歯をブラシで洗うように声掛けし、出来ない方は介助を行った。また、必要に応じて綿花を使用し口腔ケアを実施した。夕食後は、3日おきの義歯洗浄剤による義歯の洗浄・消毒を行い、必要時に歯科医師に依頼し義歯洗浄を行った。
- ⑤毎食後必ず歯磨き・うがいの声かけ、誘導をしたが、時には認知機能の低下により、理解出来ずに応じてもらえない入居者もみられた。今後も歯磨き、うがい徹底できる様に声かけ、誘導していきたい。うがいのできない利用者には綿花等で拭き取りを行い、口腔衛生に努めた。
- ⑥舌ブラシのある方は必ず毎食後使用し、自己にて出来ない方は介助にて舌の清潔保持ができた。
- ⑦認知機能低下や身体的機能低下で自己にて口腔ケアや必要物品が準備出来ない入居者に対して、歯ブラシ、舌ブラシ、義歯ブラシ、歯間ブラシ、コップの衛生管理、毎食後の洗浄・乾燥を徹底し衛生管理を行う事ができた。
- ⑧口腔内や義歯に異常を訴えた時、または発見した時は、速やかに歯科衛生士と歯科医師との連携を図った。週1回の歯科検診・ブラッシング指導の際は、利用者の痛み等の訴えを伝え、迅速に対応して頂くことで、良好な口腔内の状態を維持できている。また、急な痛み等の訴えには、休日でも対応して頂き、痛みや口腔内の改善へと繋げている。

◎今後の課題

口腔ケアを実施することで、食べる機能の低下を防ぐ可能性があるとの

事で、歯科衛生士・歯科医師との連携を図り、口腔ケアの重要性を認識してもらいながら、セルフケアとプロによる専門的なケアの両方を取り入れ、個々に合わせた口腔ケアに繋げている。その為、口腔ケアのしやすい環境づくりや一人ひとりへの声かけ・誘導を、今後も継続して行いながら習慣付けていきたい。

③書道クラブ

◎活動目的

他の利用者との交流、文字を書くという指先を使った作業を行うことで、「集中力が身につく」「精神を安定させる」など脳の活性化に繋がる。また、その月に合った言葉を書くことで季節感、風情を感じてもらう。

◎実施状況

*偶数月～毛筆 奇数月～硬筆

*新型コロナウイルス感染症予防対策の為 R4年4月～R5年3月まで活動中止。

◎反省

- ・新型コロナ感染防止対策の為書道クラブを行えなかった。今後も感染防止対策の長期化が懸念されることから、感染防止対策時期に対応した開催方法を考えていく必要がある。

◎成果

- ・実施できていない。

◎今後の課題

- ・感染状況に合わせて開催の有無の判断。
- ・開催時は感染防止対策を徹底しながら対応。
- ・開催時は各グループの利用者へ声かけすることで積極的に参加してもらい、脳の活性化を図り、認知機能の低下防止に繋げていく。
- ・開催時は利用者が書道クラブを通して楽しみを見出し、張りのある、心豊かな生活が出来るようにしていく。
- ・開催時は毛筆だけでなく、硬筆を取り入れることで、利用者が気軽に楽しく参加できるようにしていく。
- ・開催時は作品の展示の工夫にて参加する事の楽しみ、作品のファイル作りにより継続して参加することへの達成感を感じてもらえるようにする。

3) 生きがい活動における実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
遊びリレーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カラオケ	1	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	6
手芸クラブ	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
書道クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリ	88	93	88	93	93	85	92	90	88	92	84	92	1078
茶話会	2	3	3	0	0	0	0	0	1	0	0	3	12
買い物	8	7	8	7	8	8	7	8	8	8	8	9	94
その他	4	2	2	2	3	4	3	2	3	2	0	7	34
計	104	107	102	104	105	97	102	100	100	102	92	111	1226

5) 防災・防犯訓練実施状況

実施月日	訓練内容	訓練参加者
4月26日	施設内外の防災設備及び避難経路チェック 風水害想定避難準備訓練	利用者 全職員
4月28日	施設内外の防災設備及び避難経路チェック 安全確保・安全管理についての点検	防災担当 防犯担当
5月31日	施設内外の防災設備及び避難経路チェック 安全確保・安全管理についての点検	防災担当 防犯担当
6月30日	施設内外の防災設備及び避難経路チェック	防災担当
6月	ふれあいの里地域連絡協議会 ふれあいの里における防災協力について	施設長、相談員、 ふれあいの里地域連絡協議会 構成団体（文書のみ）
7月29日	施設内外の防災設備及び避難経路チェック 非常用発電機の試運転	防災担当
8月31日	施設内外の防災設備及び避難経路チェック 新任職員への防災説明	防災担当
9月 1日	防災食（炊き出し・保存食）	利用者 全職員
9月30日	施設内外の防災設備及び避難経路チェック 安全確保・安全管理についての点検	防災担当
10月25日	防災訓練・防災対策委員会	清流園
10月31日	施設内外の防災設備及び避難経路チェック	防災担当
11月10日	防火研修会	対象職員
11月30日	防犯訓練	防犯担当
11月30日	施設内外の防災設備及び避難経路チェック	防災担当
12月30日	施設内外の防災設備及び避難経路チェック	防災担当
1月31日	施設内外の防災設備及び避難経路チェック	防災担当
2月28日	施設内外の防災設備及び避難経路チェック	防災担当
3月31日	防災マニュアルの見直し	全職員
3月31日	施設内外の防災設備及び避難経路チェック	防災担当

6) ボランティア及びその他の実施状況

年 月 日	ボランティア名	内 容
R. 4. 10/24	株式会社 富士製菓	上生菓子寄贈
12/20	清武町ボランティア連絡協議会	タオル寄贈
12/23	宮崎地区遊技業組合	野菜ジュース・クッキー寄贈
R. 5. 3/22	さんさんクラブ清武地区連合会	タオル寄贈

7) 視察、研修及び実習の状況

①視察、他

年 月 日	内 容	人数
R. 4 6/7	宮崎市役所（市長 他）	3名

②研修及び実習

参加団体名	研 修 日	人数	内 容
受け入れなし			

※ボランティア、視察、研修の受け入れについては、新型コロナウイルス感染予防の点から、最小限の受け入れとなった。

6 各種委員会の状況

1) 【事故虐待防止・身体拘束廃止委員会】

実施日	内容	実施日	内容
令和4年04月06日	事業計画周知説明 事故対策マニュアル	令和4年10月13日	上半期報告まとめ 定例会議（事例検証）
令和4年05月10日	定例会議（事例検証）	令和4年11月09日	定例会議（事例検証）
令和4年06月14日	定例会議（事例検証）	令和4年12月14日	定例会議（事例検証）
令和4年07月13日	定例会議（事例検証）	令和5年01月11日	定例会議（事例検証）
令和4年08月25日	定例会議（事例検証）	令和5年02月08日	定例会議（事例検証）
令和4年09月06日	定例会議（事例検証）	令和5年03月08日	報告書様式の見直し 定例会議（事例検証）

総合評価

令和4年度の事故防止委員会においては、『ヒヤリハット』報告を積極的に提出し検証していくことで重大事故に繋がる前に対策を行ってきた。また、報告書様式の随時見直しを行い、①直ちにできる対策・②総合的な対策と段階的な取り組みを実施することで事故の再発や二次的な事故を最小限に留める取り組みに繋げることができたと思われる。また、積極的な報告と同時にリスクマネジメントに対する職員の意識も上がったと思われる。今後は更に、これまでの事故・ヒヤリハットの発生状況等をデータ化し、様々な方面からの検証を行う事で多様化する事故に対しても柔軟に対応できる体制を整備していくことが求められると考える。

〇ヒヤリハット報告書の状況

※ひやりとした今後事故につながる可能性のある事例

※転倒による怪我等は無かったが、今後事故につながる可能性の大きい事例など

年齢	性別	発生日	時刻	区分	発生場所
69	女	令和4年4月2日	11時20分頃	その他	居室
96	女	令和4年4月4日	5時10分頃	その他	トイレ53
83	男	令和4年4月7日	0時25分頃	転倒	居室
88	女	令和4年4月7日	7時50分頃	その他	食堂
74	女	令和4年4月9日	11時00分頃	その他	居室
93	女	令和4年4月10日	6時40分頃	その他	居室
100	女	令和4年4月10日	6時50分頃	その他	地域交流スペース前廊下
81	男	令和4年4月11日	11時35分頃	転倒	まつデイコーナー
86	男	令和4年4月14日	11時20分頃	その他	静養室
92	女	令和4年4月14日	7時45分頃	その他	食堂
91	女	令和4年4月16日	5時10分頃	その他	居室
80	女	令和4年4月17日	12時00分頃	その他	グラウンド
88	女	令和4年4月21日	7時45分頃	誤薬	介護課室
74	女	令和4年4月21日	7時50分頃	誤薬	食堂
82	女	令和4年4月21日	7時45分頃	誤薬	介護課室
76	男	令和4年4月22日	17時15分頃	その他	食堂
98	女	令和4年4月22日	14時20分頃	その他	介護課室前
86	男	令和4年4月25日	11時30分頃	その他	静養室

年齢	性別	発生日	時刻	区分	発生場所
90	女	令和4年4月26日	16時45分頃	転倒	ひまわりデイコーナー
80	女	令和4年4月27日	8時10分頃	転倒	事務所前廊下
80	女	令和4年4月29日	8時10分頃	転倒	事務所前廊下
80	女	令和4年5月1日	10時30分頃	その他	居室
97	男	令和4年5月3日	10時00分頃	その他	居室
80	女	令和4年5月4日	9時10分頃	転倒	居室
80	女	令和4年5月14日	20時30分頃	その他	居室
80	女	令和4年5月19日	19時40分頃	その他	居室
85	女	令和4年5月22日	7時15分頃	その他	食堂
86	男	令和4年5月24日	20時30分頃	転倒	居室
93	女	令和4年5月26日	21時00分頃	その他	居室
93	女	令和4年5月27日	8時05分頃	その他	食堂
86	男	令和4年5月27日	19時30分頃	その他	居室
80	女	令和4年5月28日	10時07分頃	その他	居室
93	女	令和4年5月29日	17時30分頃	その他	食堂
93	女	令和4年6月1日	7時00分頃	転倒	居室外
97	女	令和4年6月2日	15時40分頃	転落	居室
80	女	令和4年6月2日	18時05分頃	その他	居室
86	男	令和4年6月3日	10時45分頃	転倒	居室
93	女	令和4年6月4日	11時30分頃	その他	食堂
81	男	令和4年6月16日	18時10分頃	転倒	居室外
80	女	令和4年6月17日	18時15分頃	転倒	居室
93	女	令和4年6月17日	12時30分頃	その他	居室
95	女	令和4年6月22日	18時10分頃	転倒	居室
86	男	令和4年6月24日	14時15分頃	転倒	浴室
97	男	令和4年6月26日	8時00分頃	その他	居室
81	男	令和4年6月29日	23時00分頃	転倒	居室
93	女	令和4年7月11日	1時00分頃	その他	居室
91	女	令和4年7月19日	11時20分頃	その他	食堂
78	女	令和4年7月20日	5時27分頃	その他	居室
100	女	令和4年7月27日	5時35分頃	その他	居室
84	女	令和4年8月2日	21時55分頃	転倒	1寮廊下
100	女	令和4年8月3日	18時05分頃	その他	居室
99	女	令和4年8月4日	3時05分頃	その他	居室
97	男	令和4年8月5日	17時25分頃	その他	居室
90	女	令和4年8月11日	16時40分頃	転倒	居室
100	女	令和4年8月12日	1時13分頃	その他	居室
80	女	令和4年8月26日	9時10分頃	その他	さくらデイコーナー
98	男	令和4年8月26日	8時55分頃	その他	さくらデイコーナー
98	男	令和4年8月26日	13時55分頃	その他	居室
81	女	令和4年9月8日	17時50分頃	転倒	食堂
88	女	令和4年9月10日	21時40分頃	転倒	居室
92	女	令和4年9月15日	7時00分頃	その他	居室
81	女	令和4年9月16日	5時00分頃	転倒	居室
81	女	令和4年9月21日	13時45分頃	転倒	廊下
80	女	令和4年9月22日	20時45分頃	その他	居室
97	女	令和4年9月30日	12時30分頃	その他	居室
99	女	令和4年10月14日	15時00分頃	転倒	廊下
87	女	令和4年10月19日	12時55分頃	転倒	居室
81	女	令和4年10月22日	18時15分頃	その他	居室
92	女	令和4年10月27日	4時00分頃	その他	居室
87	男	令和4年10月28日	20時50分頃	転落	居室
82	女	令和4年10月31日	0時43分頃	転倒	居室

年齢	性別	発生日	時刻	区分	発生場所
101	女	令和4年11月6日	5時50分頃	転落	居室
87	女	令和4年11月12日	13時15分頃	その他	居室
99	女	令和4年11月21日	12時30分頃	その他	居室
87	女	令和4年11月24日	16時35分頃	その他	居室
87	女	令和4年11月29日	16時00分頃	その他	居室
83	女	令和4年12月7日	6時50分頃	転倒	居室
89	女	令和4年12月8日	8時15分頃	その他	5-16外
94	女	令和4年12月15日	10時45分頃	転落	トイレ53
101	女	令和4年12月22日	1時15分頃	その他	居室
91	女	令和4年12月23日	0時30分頃	その他	居室
100	女	令和4年12月23日	22時10分頃	転倒	居室
94	女	令和4年12月25日	5時05分頃	その他	居室
81	女	令和4年12月27日	18時20分頃	転倒	居室
81	女	令和4年12月27日	1時30分頃	その他	居室
95	女	令和5年1月2日	5時10分頃	転倒	居室
81	女	令和5年1月2日	19時55分頃	転倒	居室
81	女	令和5年1月8日	9時40分頃	その他	居室
94	女	令和5年1月16日	5時30分頃	その他	まつデイコーナー
95	女	令和5年1月19日	18時20分頃	その他	居室
81	女	令和5年1月19日	6時15分頃	転倒	さくらデイコーナー
88	女	令和5年1月20日	17時20分頃	その他	食堂
87	女	令和5年1月20日	20時30分頃	その他	静養室
94	女	令和5年1月21日	20時15分頃	その他	居室
94	女	令和5年1月25日	12時15分頃	その他	居室
89	女	令和5年1月29日	6時00分頃	その他	居室
81	女	令和5年1月30日	14時40分頃	転倒	居室
88	女	令和5年2月3日	15時35分頃	転倒	看護師室
88	女	令和5年2月6日	11時43分頃	転倒	食堂
75	女	令和5年2月14日	14時20分頃	転倒	介護課室前
81	女	令和5年2月15日	9時15分頃	転倒	居室
94	女	令和5年2月17日	5時10分頃	転倒	居室
81	男	令和5年2月18日	11時20分頃	転倒	3寮廊下
88	女	令和5年2月18日	10時15分頃	その他	居室
81	女	令和5年2月18日	15時35分頃	転倒	居室
98	女	令和5年2月19日	14時50分頃	その他	居室
85	女	令和5年2月27日	6時00分頃	転倒	居室
81	女	令和5年2月27日	5時45分頃	その他	静養室
87	男	令和5年3月1日	19時30分頃	その他	居室
89	女	令和5年3月8日	18時45分頃	転落	さくら洗面台
77	男	令和5年3月11日	18時10分頃	その他	食堂
89	女	令和5年3月24日	12時05分頃	転倒	事務所前
98	女	令和5年3月30日	17時00分頃	転落	居室
88	女	令和5年3月24日	2時13分頃	転落	居室

○事故報告書の状況

※転倒等により処置および病院受診を行った事例等

※病院受診した場合は、大きな怪我等がなくても事故として処理

年齢	性別	発生日	時刻	区分	発生場所
100	女	令和4年5月10日	8時30分頃	その他	居室
86	男	令和4年6月8日	0時15分頃	転倒	静養室
91	女	令和4年12月6日	6時50分頃	転倒	居室
99	女	令和4年12月15日	18時10分頃	転落	居室
87	女	令和5年1月26日	18時00分頃	その他	食堂
91	女	令和5年2月17日	8時40分頃	転倒	居室
98	女	令和5年2月21日	9時30分頃	その他	居室
80	女	令和5年3月16日	5時35分頃	その他	居室

【感染症予防・まん延防止委員会】

実施日	内容	実施日	内容
令和04年04月26日	事業計画周知説明 定例会議 感染症対策実施 新型コロナウイルス対策	令和04年10月27日	定例会議 感染症対策実施 新型コロナウイルス対策
令和04年05月24日	定例会議（食中毒シーズン前の確認） 感染症対策実施 新型コロナウイルス対策	令和04年11月30日	定例会議 11/30『インフルエンザ・ノロウイルス・新型コロナウイルス感染防止研修』
令和04年06月29日	定例会議（食中毒対策確認） 6/30『食中毒予防』研修会	令和04年12月28日	定例会議 感染症対策実施 新型コロナウイルス対策
令和04年07月27日	定例会議 感染症対策実施 新型コロナウイルス対策	令和05年01月26日	定例会議 感染症対策実施 新型コロナウイルス対策
令和04年08月24日	定例会議 感染症対策実施 新型コロナウイルス対策	令和05年02月22日	定例会議 感染症対策実施 新型コロナウイルス対策
令和04年09月28日	定例会議 感染症対策実施 新型コロナウイルス対策	令和05年03月23日	定例会議 感染症対策実施 新型コロナウイルス対策

総合評価

令和4年の感染防止対策としては、新型コロナウイルス感染予防対策を最重要課題として、予防対策の強化を行った。特に宮崎県内の感染状況に注意し、面会制限や必要最小限の外出（病院受診）などを強化することで、施設内への感染を防ぎながら、感染対策用品の備蓄など有事に備えての対策も強化できたと思われる。結果、現在に至るまでお1人の感染者も出すことなく経過し、同時にインフルエンザやノロウイルス等の感染症についても予防を徹底することができた。また、定期的に行う個人所有の冷蔵庫の内容物・庫内温度確認についても利用者の理解を求めながら定期的に行い賞味期限切れや保管状態の悪い食品を適切に処理する事ができました。今後も関係機関の報告や指示を基に感染予防対策を徹底し利用者や職員の安全確保を目指したい。

新型コロナウイルス感染対策（常時）

インフルエンザ予防対策期間（令和4年10月～令和5年2月）

【食事サービス委員会】

実施日	内 容	実施日	内 容
令和04年04月20日	給食事業計画説明 定例会議	令和04年10月19日	定例会議
令和04年05月18日	定例会議	令和04年11月16日	感染症予防と感染症対策について 定例会議
令和04年06月15日	定例会議	令和04年12月21日	忘年会&クリスマスバイキングについて 定例会議
令和04年07月20日	定例会議	令和05年01月18日	園内喫茶について 定例会議
令和04年08月17日	敬老会について 定例会議	令和05年3月15日	栄養士不在の為延期
令和04年09月20日	スイーツバイキングについて 定例会議	令和05年03月15日	園内喫茶（花見）について 定例会議
総合評価 昨年に引き続き食事環境の整備と食事形態の改善を目標に活動した。献立、調理の改善のほか食事形態について各職種から問題提起や提案のあった刻み食形態について検討した。結果 本年度より、食事形態の変更を実施することとなり、更なる安心安全な食事提供を行えた。新メニュー等 積極的に取り入れた。調味についても安定し、美味しいとの評価を得ている。食事中の利用者の状況や姿勢、食べる速度など他職種と協働で情報を共有し安全な食事摂取、喫食量の向上につなげた。			

【業務改善委員会】

実 施 日	
令和04年04月14日	『令和4年度 事業計画周知説明会』
令和04年07月26日	『機密文書の整理と業者処分作業』について
その他、必要時掲載	『多職種連携会議』（各課業務改善）
総合評価 年度内を通して、業務効率化と入居者の状態に合わせた業務の検討・改善を実施。また、記録技術の向上と効率化を目的とした記録様式による電算化にも取り組み記録時間の簡素化等に取り組むことができた。また、必要に応じて『多職種連携会議』を開催し、業務の効率化を進めてきた。今後も職員全体で次年度計画に向けての確認作業を行うことで計画的な取り組みの繋がると思われる。	

【経営対策委員会】

実施日	内容	実施日	内容
令和04年04月14日	水道光熱費における前年度比較	令和04年10月12日	水道光熱費における前年度比較
令和04年05月17日	水道光熱費における前年度比較	令和04年11月10日	水道光熱費における前年度比較
令和04年06月09日	水道光熱費における前年度比較	令和04年12月20日	水道光熱費における前年度比較
令和04年07月14日	水道光熱費における前年度比較	令和05年01月12日	水道光熱費における前年度比較
令和04年08月16日	水道光熱費における前年度比較	令和05年02月09日	水道光熱費における前年度比較
令和04年09月13日	水道光熱費における前年度比較	令和05年03月14日	水道光熱費における前年度比較
<p>総合評価</p> <p>職員が関われる経費削減の一つである水道光熱費について、目標設定・年度比較・実績報告を定期的に行うことにより、職員各個人が水道光熱費節減に対する意識を高めることで各エネルギー使用量の削減できるよう進めてきた。今後も適切な節減に努め、必要な場所や状況により適宜運転するなどして光熱費削減に努めていく。</p>			

【苦情受付】

○苦情処理状況（令和4年度）

No	月日	申出者	苦情の内容	解決へ向けての対処
1	6月14日	入居者	【食事内容に関する苦情（ご本人選択の食事形態についての誤解によるもの）】 グループデイコーナーにて介護職員を呼び止められ、「夕食の汁になんで私のだけソーメンが入っていなかった」と興奮して言われる。（この日の夕食に『ソーメンの清汁』が提供されていたが、ご本人の食事形態は『粥/刻み食』の為、細かく粉碎された具材となっておりソーメンに見えなかったことが要因）。	栄養士がご本人に話を伺い、申出人の選択中の食事形態による食事の見た目について説明し理解をして頂く。結果、ご本人の希望によりその日の昼食より『主食はそのまま粥食で副食を常食に変更』となる。申し出人に、栄養士より変更後の食事形態について、実際に提供された後に意向を確認する。申出人より「これでいいよ。美味しかった。ありがとう」と返答がある。
2	7月22日	入居者	【金銭の貸し借りによる利用者間のトラブル】 申出人が事務所に来られ、「（利用者）Aさんが、時々『お金を貸してほしい』と相談に来られ困っている」と事務員に相談があったとのこと。	相談内容を踏まえ、申出人と利用者A氏の関係性を悪化させない方法として、「金銭の貸し借りについては行わないよう職員から説明を受けている」と返答を行い、金銭が必要な場合は職員に相談していただくよう促してほしいと説明する。今回は、ご本人と利用者A氏との関係を低下させない為、A氏へ直接注意は避けた形で様子を見ていくことで、申出人も同意される。現在のところトラブル等は無く経過。

3	8月24日	入居者	19:30申出人が介護士室に来られ、2寮（申出人居室付近）の廊下に冷房がついているか確認に来られる。冷房運転が作動中である事を伝えるが、「廊下が暑いとの事で冷房温度を下げしてほしい」と希望あり、一時的に対応したと夜間介護員より申し送りある。	日を改めて相談員より申出人に適温運転の推進や・節電協力をお願いする。また、その日の気温や湿度によっては同じ設定温度でも熱く感じたりすることもあり、また共有部分については、個々の希望に合わせることは難しい為、温度計を確認し対応させていただくこととし、更に温度を下げた場所で過ごしたい場合は居室の設定温度で個別に過ごして頂くよう説明し同意を頂く。
4	10月28日	入居者	【申出人の入退院時の関わりに関する苦情】 施設看護職員から主治医への『申出人の入院に関する情報提供』の流れについて「看護師は直接自分に関わっていないのに勝手に文書を作成し医師に渡した。結果入院となった」と苦情となる。	今回の苦情については、申出人の認識不足や理解困難によるものが大きく、不満に対して施設側の対応に不備が無いことや申出人に対しても都度説明により進めた経緯を説明するもご理解いただけなかった。結果、第三者として宮崎市担当課職員による聞き取り面談を実施するが、結果は同じで同様に申出人の理解は得られなかった。施設側の対応に不備は無いことから経過観察となった。
5	11月26日	入居者	【入居者同士の共有設備使用に関する苦情】 14:00 介護士室まで来られ「私が洗濯している洗濯機の中にU氏（他利用者）が衣類をいれていたから、言いに行ったけど。謝りもせん。あの人に洗濯をさせたらいかんわ。」と言われる。傾聴し謝罪する。その後も他利用者によるそのことについて話をされている。	申出人には、その場で謝罪しU氏へ助言を行うことで理解を求めた。また、U氏については他利用者の洗濯中に衣類を入れてしまったことにより苦情となっていることを伝える。今後、職員が洗濯支援することも提案するが「自分でするからいい。今回も洗濯機の中を見ただけ他者の衣類が入っているのに気づかなかつた。あん人は大げさやとよ」と逆に興奮される状態。説明に対し納得が難しいことから、今後も洗濯機の使用時は中の確認など、使用に関する注意点を再度依頼し様子を見ていくこととする。
6	12月13日	入居者	【食事中の過ごし方による意識の違いによるトラブル】申出人が施設長室を訪れ、食堂での食事中の他者の会話について、「食事中に話し声や笑い声など多いか人がいて不快に感じている。食事中は会話をしないよう注意してほしい」と訴えがある。申出人からは、1カ月ほど前から、食堂での他利用者の話し声、笑い声等でイライラされ職員へ訴える頻度が多くなってきていた。	業務統括課長が申出人と食事中のマナーを含め対応について話し合いを行う。食堂での会話について確認してきたが、極めて騒音となるような状況は無く、現状以上に食事中の会話について制限することは難しい状況であることを説明。食事中の雰囲気については個人の思考によることもある為、静かな環境での食事として、居室配膳（デイコーナー）で食事することを提案する。申し出にも同意され、苦情は解消された。
7	2月7日	入居者	申出人への居室での眠前薬と薬時に、「隣の人（他利用者）がトイレでキンチョールを使うから臭くてたまらん。おそらくキンチョールでトイレの便座を拭いてるとよ」と訴える。その場合は傾聴しながら、トイレではキンチョールは使っていないと思うと話をすると、「あん人しかおらんわ」と決めつけたように話をされた。	今回の苦情については、申出人の勘違いと思われるが、念のため申出人の話していた他利用者を確認する。その方は確かにキンチョールを持っていたが「トイレで使ったことは無いし、夏しか使用していない」との返答であった。今回の対応については、申出人の思い込みが強く、説明を行っても誤解であると認識していただけないことから、今後の対策として、誤解を受けた利用者の方に協力説明を行いキンチョールを預からせて頂いた。

【総合評価】

今年度においても、年度内を通して随時苦情受付対応を実施しました。しかし、施設利用者の高齢化や心身機能の重度化も進み相談事があっても伝えることができない入居者も多く、コミュニケーションを通して可能な限り気持ちを汲み取る対応も実施しました。挙げられたご意見やご要望に対しては、速やかに解決に向けての取り組みを実施し、日々の申し送りや職員会議、全体処遇会議を活用し、また早期解決の必要な内容については、朝礼や終礼にて職員周知を図りました。また、解決困難な事例に関しては、宮崎市担当課等の協力機関との連携をとり苦情の拡大防止にも繋げました。第三者訪問は、新型コロナウイルスの影響で利用者との対面を避ける形となり、9月、3月共に職員からの現状報告のみとなりましたが、必要に応じて第三者委員の協力も求めながら、過ごしやすい環境づくりに努めてきました。今回も年度評価を含め令和5年4月には『令和4年度入居者満足度調査』によるアンケートを実施し総合的な評価や課題分析を行いました。

7 財務諸表・他

1) 資金収支計算書

勘定科目		金額(千円)	
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	49,982
		老人福祉事業収入	101,627
		その他の事業収入	13,784
		経常経費寄附金収入	50
		受取利息配当金収入	67
		その他の収入	259
		事業活動収入計	165,749
	支出	人件費支出	101,658
		事業費支出	40,312
		事務費支出	25,037
		支払利息支出	0
		その他の支出	0
		事業活動支出計	167,007
事業活動資金収支差額		▲ 1,258	
施設整備等による収支	収入	施設整備等収入	0
	支出	施設整備等支出	0
	施設整備等資金収支差額		0
その他の活動による収支	収入	その他の活動収入	1,758
	支出	その他の活動支出	3,739
	その他の活動資金収支差額		▲ 1,891
当期資金収支差額		▲ 3,239	
前期末支払資金残高		26,449	
当期末支払資金残高		23,210	

2) 事業活動計算書

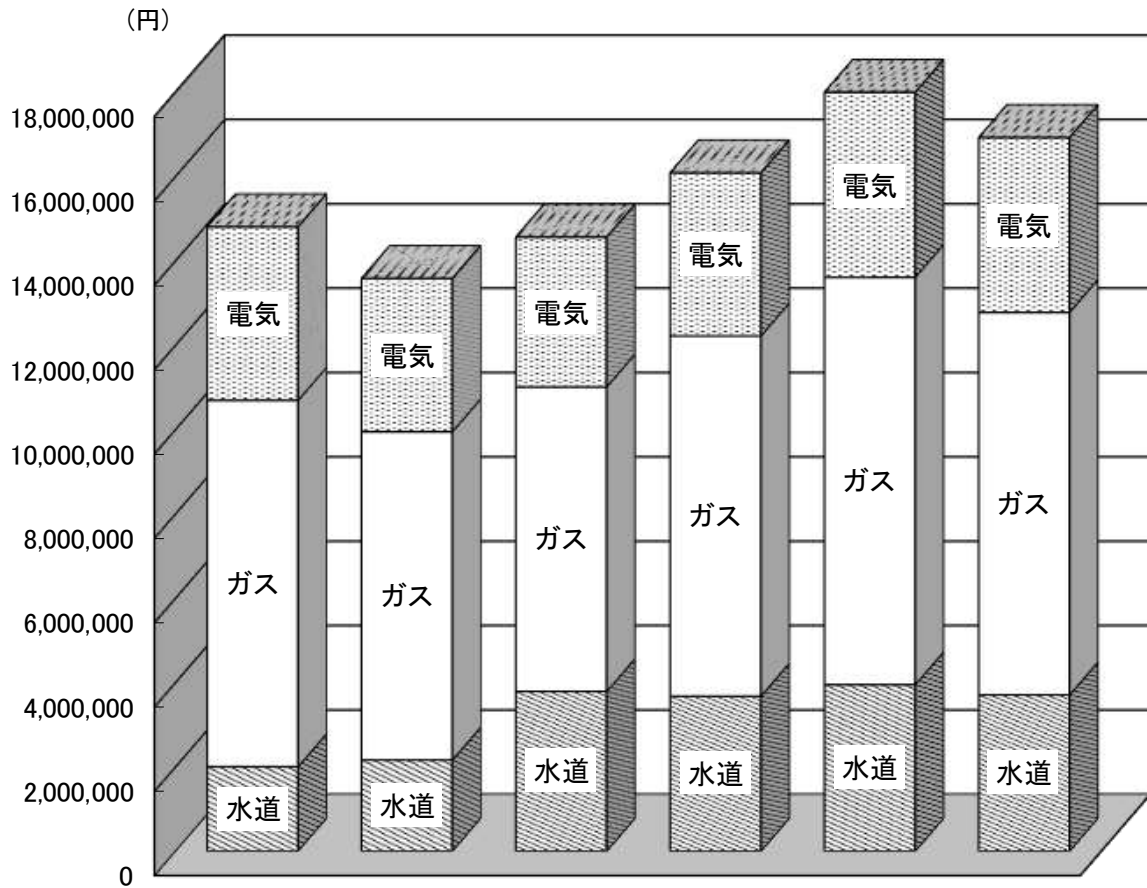
勘定科目			金額(千円)
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	49,982
		老人福祉事業収益	101,627
		その他事業収益	13,784
		経常経費寄附金収益	50
		その他の収益	1
	費用	人件費	101,915
		事業費	40,312
		事務費	25,037
		減価償却費	706
		その他の費用	0
サービス活動増減差額			▲ 2,526
サービス活動外増減の部	収益	サービス活動外収益	305
	費用	サービス活動外費用	0
	サービス活動外増減差額		
特別増減の部	収益	特別収益	1,398
	費用	特別費用	3,122
	特別増減差額		
当期活動増減差額			▲ 3,945
前期繰越活動増減差額			30,092
当期末繰越活動増減差額			26,147
その他積立金取崩額			0
その他積立金積立額			0
次期繰越活動増減差額			26,147

3) 貸借対照表

資産の部		負債の部	
科目	金額(千円)	科目	金額(千円)
流動資産	30,771	流動負債	7,561
現金預金	22,171	事業未払金	7,439
有価証券	0	預り金	20
事業未収金	8,377	職員預り金	102
立替金	166	固定負債	9,282
前払金	57	設備資金借入金	0
仮払金	0	退職給与引当金	9,282
固定資産	33,291	負債の部合計	16,843
基本財産	0	純資産の部	
その他の固定資産	33,291	科目	金額(千円)
		基本金	0
		国庫補助金等特別積立金	0
		その他の積立金	21,072
		次期繰越活動収支差額	26,147
		純資産の部合計	47,219
資産の部合計	64,062	負債及び純資産の部合計	64,062

4) 水道光熱費の推移

水道光熱費の推移



エネルギー区分		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度目標
電気	使用量kW	222,388	215,564	218,722	220,085	211,628	200,000
	電気代	4,114,120	3,632,334	3,551,864	3,867,254	4,386,219	4,145,216
ガス	使用量m ³	27,672	27,863	27,866	33,495	28,751	27,000
	ガス代	8,688,361	7,784,360	7,219,010	8,540,433	9,659,026	9,070,770
水道	使用量m ³	8,669	8,151	8,429	8,123	8,632	8,100
	上水道代	2,002,023	1,944,718	1,990,273	1,948,247	2,046,062	1,919,961
	下水道代	0	217,269	1,797,839	1,728,278	1,902,570	1,785,312
	水道代計	2,002,023	2,161,987	3,788,112	3,676,525	3,948,632	3,705,273
水道光熱費合計		14,804,504	13,578,681	14,558,986	16,084,212	17,993,877	16,921,259